

2次交通対策(案)

1 公共交通の状況【H26 年度報告書】

(1) 鉄道

小樽市内には、札幌方面と函館方面を結ぶ JR 函館本線が運行しています。市内に JR 駅は 7 駅あり、そのうち快速エアポートが停車する駅は「小樽」「南小樽」「小樽築港」の 3 駅です。

JR の運行状況をまとめると、快速エアポートによる札幌までの所要時間は 32 分で、新千歳空港までは約 1 時間 15 分で到着します。本数は、平成 28 年 3 月末時点で新千歳空港方面が 24 本/日、小樽方面が 25 本/日あり、そのうち 10～19 時では 30 分に 1 本のペースで運行しています。

さらに、区間快速は札幌方面が 22 本/日、小樽方面が 23 本/日運行しており、普通列車は、札幌方面が 30 本/日、小樽方面が 31 本/日運行しています。快速エアポート、区間快速、普通を合わせると、日中は 1 時間に 5 本運行しており、列車本数は充実しています。

また、小樽から長万部まで函館本線の普通列車が運行しており、途中駅である余市や倶知安、ニセコ、蘭越などを発着する列車も運行しています。小樽・余市間は小樽方面が 16 本/日、余市方面が 15 本/日運行し、小樽・倶知安間は、小樽方面が 12 本/日、倶知安方面が 11 本/日が運行しています。

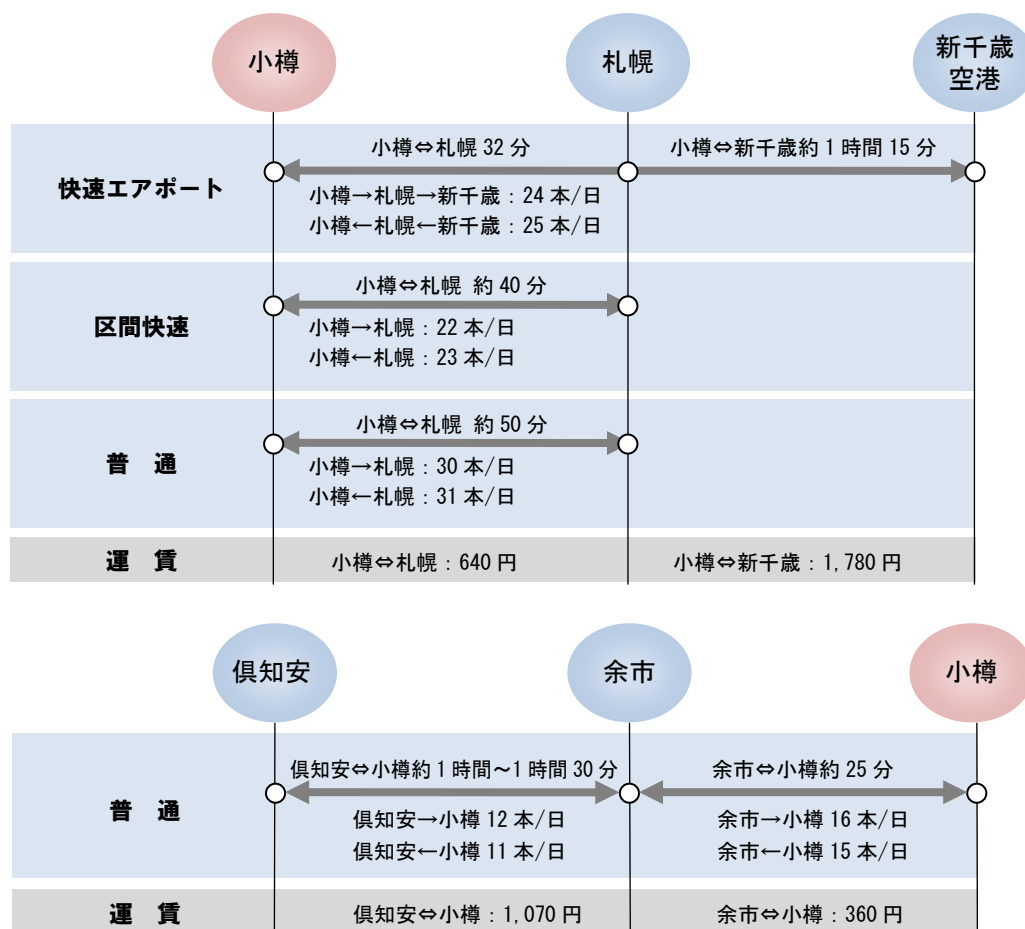


図 JRの運行状況

資料：JR 北海道時刻表（平成 28 年 3 月改正ダイヤ）

(2)バス

小樽市内は、下図のとおり、路線バスが広く運行しています。

また、都市間バスは、5頁の図のとおり、小樽駅前を発着地として、札幌市のほか余市町、古平町、積丹町、仁木町、赤井川村（キロロ）の北後志地域や倶知安町、ニセコ町、共和町、岩内町などを結ぶ路線バスや高速バスが運行しており、特に札幌市間、余市町間のバス便数は充実しています。

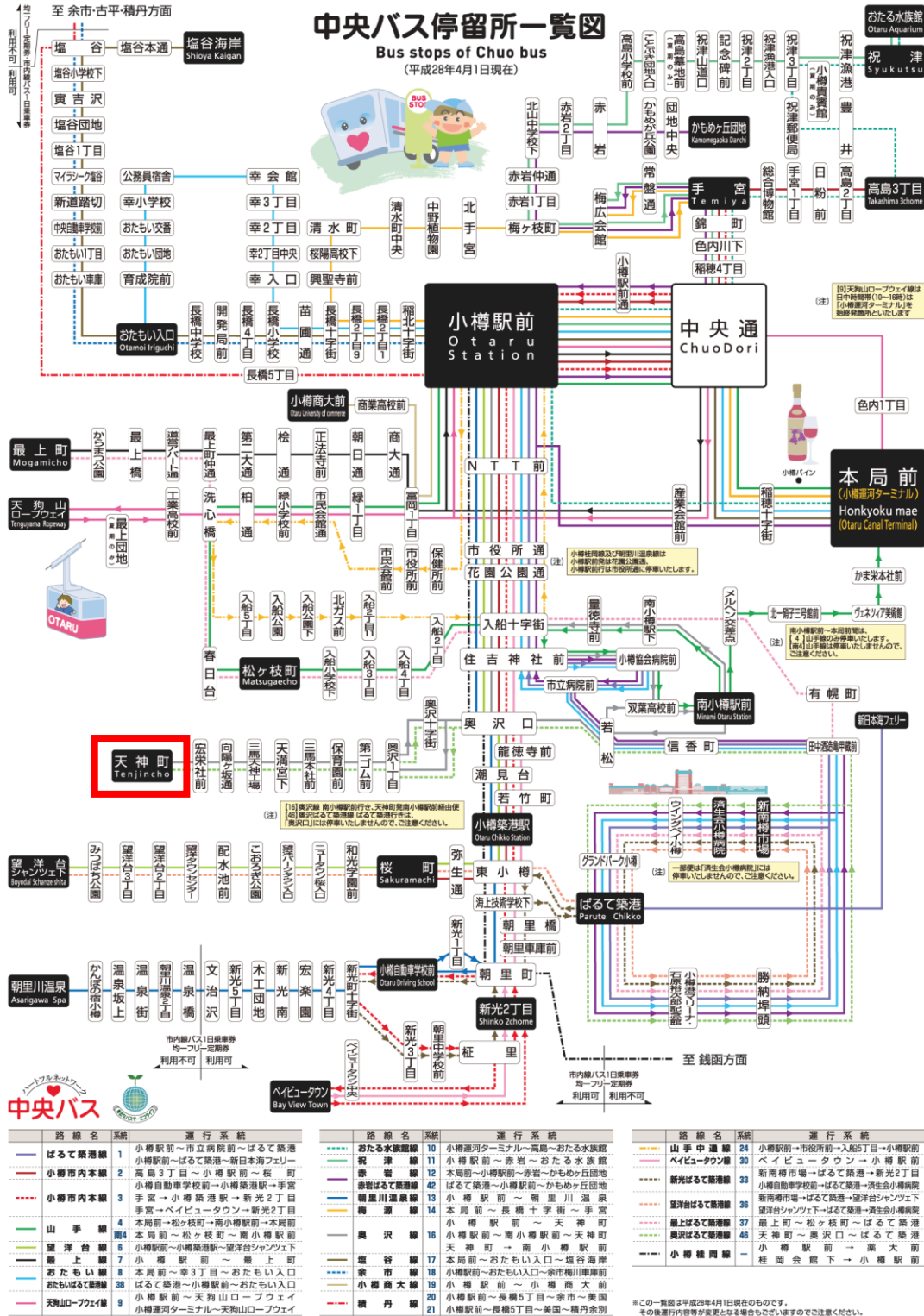


図 市内バス路線図

資料：北海道中央バス

新小樽（仮称）駅周辺には、「奥沢線」「奥沢・ぱるて築港線」の2系統の路線バスが運行されています。

奥沢線	奥沢・ぱるて築港線
【天神町←小樽駅】 4～6 便/時（7 時～19 時） … (■) ※ 18 時台に南小樽経由が 1 便あり … (—)	【天神町←ぱるて築港】 1 便/時（12 時～16 時） … (■)
【天神町→小樽駅】 4～6 本/時（7 時～19 時） … (■) ※ 6、7 時台に南小樽経由が 3 便あり … (—) ※ 6 時台に南小樽行が 2 便あり … (—)	【天神町→ぱるて築港】 1 便/時（9～11 時, 13 時） … (■)
運賃：220 円	運賃：220 円

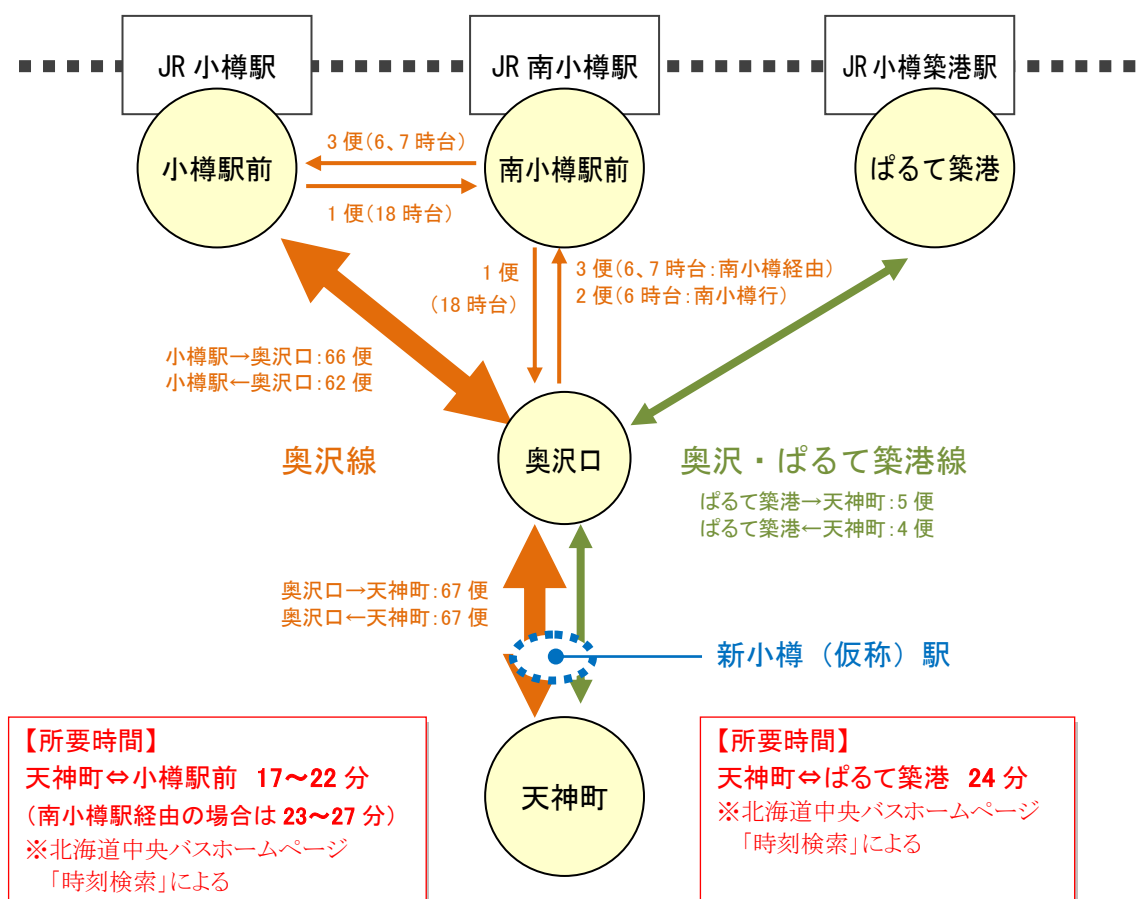


図 バス便数（平日）・運賃

資料：北海道中央バス時刻表（平成 28 年 4 月～11 月）

⑬奥沢線

月曜 ～ 金曜	⑬	系統 番号	⑬
	小樽駅前 発	時刻	天神町 発
	天神町 行		小樽駅前 行
	42	6	南23 30 南36 ★57
	00 13 28 36 46 56	7	06 ★15 23 ★30 40 52
	08 18 26 38 50	8	02 10 20 32 42 50
	02 14 26 38 50	9	02 12 24 38 50
	02 17 30 47	10	02 15 30 45
	02 17 30 47	11	00 15 30 45
	02 17 30 47	12	00 15 30 45
	02 17 30 47	13	00 15 30 45
	02 17 30 47	14	00 15 30 45
	02 17 30 47	15	00 15 30 45
	02 17 30 47	16	00 12 26 41 55
	02 12 22 30 38 48	17	02 14 28 38 50
	00 12 24 ★38 48	18	00 15 30 48
	00 17 32 50	19	05 15 30 50
	05 25 45	20	12 40
	07 29 50	21	07 50
	12	22	

⑭奥沢・ぱるて築港線

月曜 ～ 金曜	⑭	系統 番号	⑭
	ぱるて築港 発	時刻	天神町 発
	天神町 行		ぱるて築港 行
		6	
		7	
		8	
		9	55
		10	55
		11	55
	28	12	
	35	13	05
	25	14	
	25	15	
	25	16	
		17	
		18	
		19	
		20	
		21	
		22	

土曜・日曜・祝日	45	6	▲23 ★36 ★57
	10 30 50	7	★15 ★30 45
	12 32 52	8	00 20 40
	12 32 52	9	00 20 40
	12 32 52	10	00 20 40
	12 32 52	11	00 20 40
	12 32 52	12	00 20 40
	12 32 52	13	00 20 40
	12 32 52	14	00 20 40
	12 32 52	15	00 20 40
	12 32 52	16	00 20 40
	12 32 52	17	00 20 40
	12 32 52	18	00 20 40
	12 32 52	19	10 40
	12 32 52	20	10 50
12 32 52	21	30	
12	22		

土曜・日曜・祝日	6	
	7	
	8	
	9	○55
	10	○55
	11	○55
	○28	12
	○35	13
	○25	14
	○25	15
		16
		17
		18
		19
		20
	21	
	22	

▲印便は土曜日のみ運行(但し、8/13は運休) 運賃 220 円
 南印便は「南小樽駅前」止まりです。 ◎印便は「済生会小樽病院」に停車しません。
 ★印便は「南小樽駅前」経由です。
 上記路線(⑬・⑭)はお盆期間(8/13～15)は日祝ダイヤです。

図 奥沢線、奥沢・ぱるて築港線の時刻表

資料：北海道中央バス（平成28年4月～11月）

また、小樽の観光地を巡る路線バスやおたる散策バスが北海道中央バスにより運行され、観光客の足を確保しています。

これらは、小樽駅前ターミナルや小樽運河ターミナルから小樽運河・堺町方面、祝津方面、天狗山方面へ運行しています。



図 観光地を巡るバス路線図

資料：北海道中央バス「小樽観光ガイドブック 2016summer ルートマップ・運行時刻表」

表 バス運賃

1乗車ごとの運賃	大人 220円	小人 110円
1日乗車券	大人 750円	小人 380円

資料：北海道中央バス

(3)現状・課題のまとめ

【現状】

- 新小樽（仮称）駅周辺地域には、現在、小樽駅と当地域を結ぶ路線バス「奥沢線」が運行されており、日中は15分間隔で運行しているため、生活交通としては充実しています。
- また、市内各観光エリア（中央・手宮地域、祝津・高島地域、天狗山地域、朝里川温泉地域、ぼるて築港地域）と北後志地域（積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村）へのアクセスは、現在小樽駅を起終点とした交通ネットワークが形成されています。

【課題】

- 新小樽（仮称）駅は、市街地の縁辺部に位置し、小樽市街地までは4～5kmの距離がありますが、道央圏及び東北・北関東方面を結ぶ広域交通と市内の既存交通体系との結節点となります。このため、中心部や市内各所の観光地、各種交通結節点（JR駅・インターチェンジ・港）とのスムーズなアクセスの確保を図る2次交通の充実などが求められます。

【対応の方向性】

- 様々な2次交通の確保

2 まちづくり方針【H27 年度報告書内容】

(1) 2次交通対策の基本的な考え方

2次交通対策の基本的な考え方を整理します。



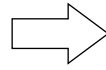
※1 岩宇地域 : 岩内町、共和町、泊村、神恵内村の2町2村

※2 北後志地域 : 小樽市、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村の1市4町1村

図 2次交通対策の基本的な考え方

参考：まちづくり方針2「交通ネットワークの形成」

まちづくり方針2：
交通ネットワークの形成



- 交通拠点とのアクセス
- 市内各観光地とのアクセス
- 2次交通の確保・充実
- 広域周遊

●交通拠点とのアクセス

・JR各駅、各IC、小樽港を結ぶ主要なアクセス道路は、現道の活用を基本としますが、新小樽（仮称）駅と各交通拠点との間で円滑なアクセスを図るため、必要に応じ、道路の改良を検討するなど、道路交通の安全性を高めることとします。

表 JR各駅との距離

交通結節点	目的地	ルート	直線距離	道のり
JR 駅 (図 I-1-2)	小樽駅	■ (国道・奥沢十字街経由)	約 3.9km	約 4.8km
		●●●● (国道・臨港線・中央通経由)	〃	約 5.7km
		■ (道道・松ヶ枝経由(山まわり))	〃	約 4.7km
	南小樽駅	■	約 3.2km	約 3.4km
小樽築港駅	■	約 3.9km	約 4.5km	

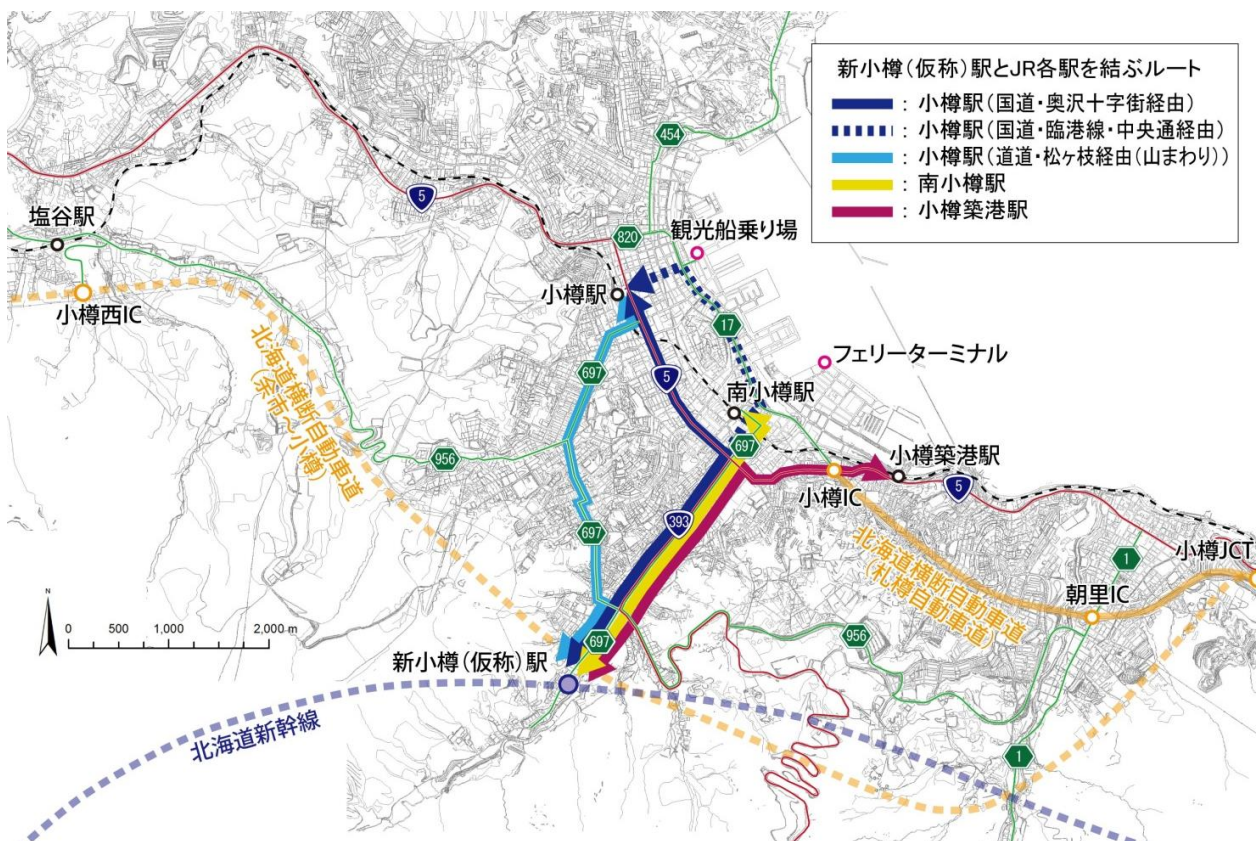







図 新小樽（仮称）駅と JR 各駅を結ぶルート

表 高速道路 IC、小樽港との距離

交通結節点	目的地	ルート	直線距離	道のり
高速道路 IC (図 I-1-3)	小樽 IC		約 3.4km	約 3.9km
	朝里 IC	 (小樽 IC 経由)	約 5.3km	約 6.9km
		 (道道・望羊台経由(山まわり))	〃	約 8.3km
小樽港 (図 I-1-3)	フェリーターミナル		約 4.0km	約 4.5km
	観光船乗り場		約 4.4km	約 5.3km

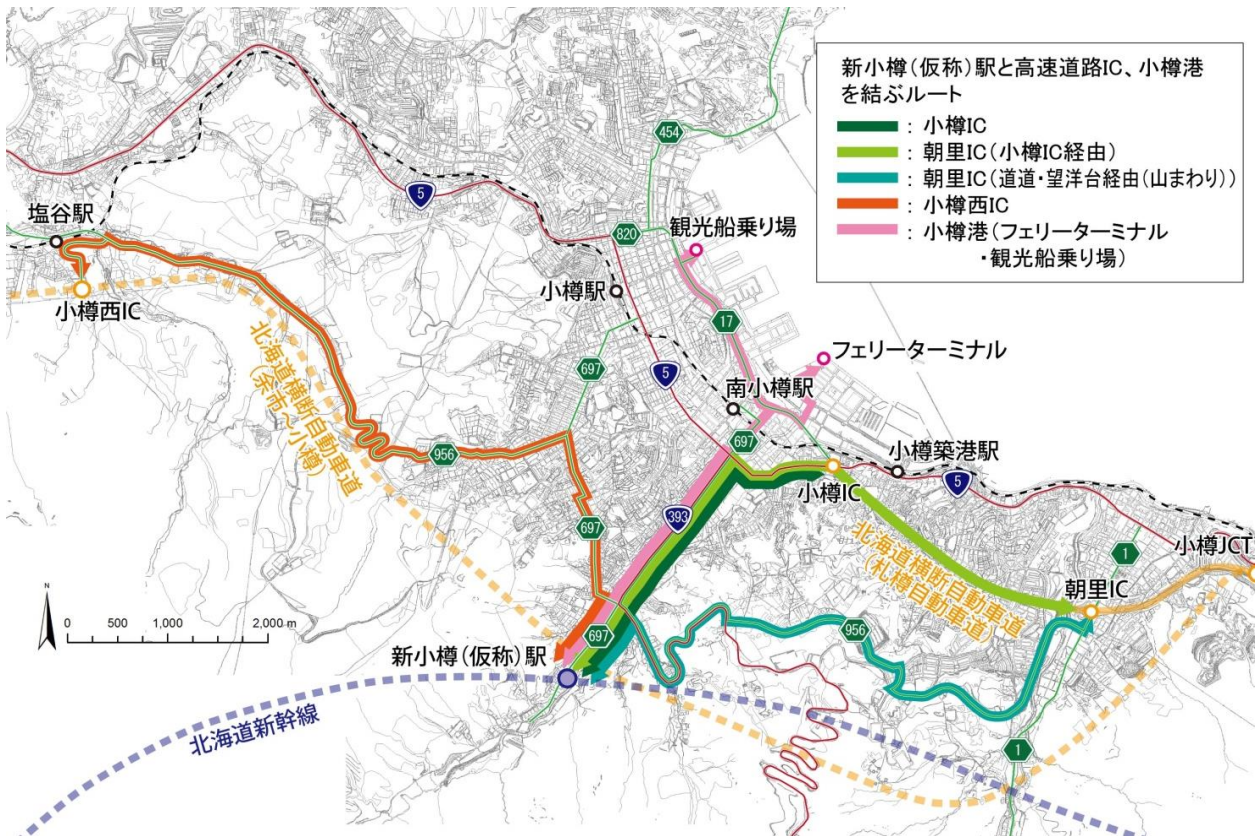


図 新小樽(仮称)駅と高速道路 IC、小樽港を結ぶルート

●市内各観光地とのアクセス

- ・主要な観光地へのアクセス道路は、現道の活用を基本とし、交通拠点とのアクセス道路に準ずることとします。

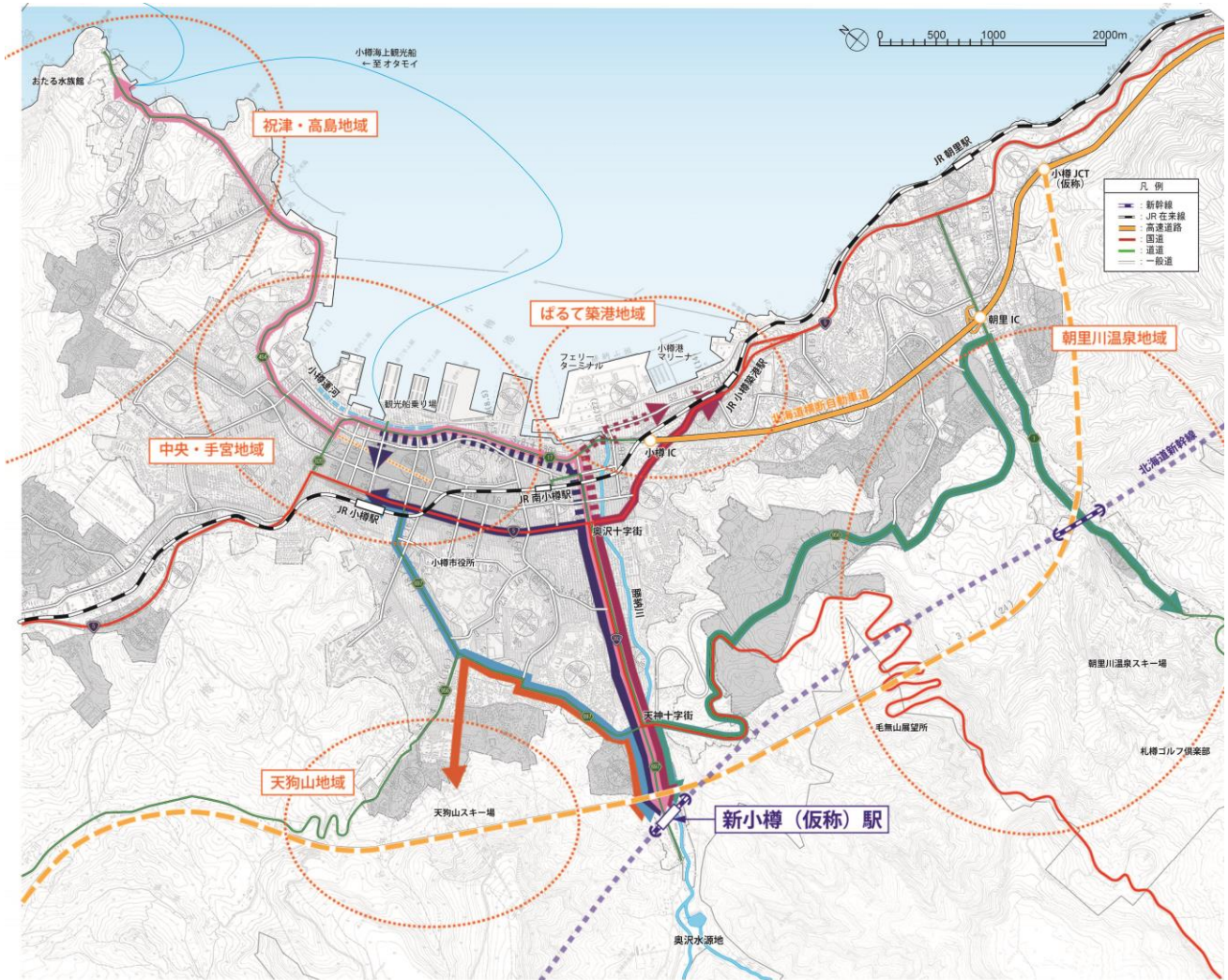


図 新小樽(仮称)駅と市内各観光地への主なアクセスルート

3 事例調査

(1) 調査の概要

近年の新幹線開業地域における2次交通対策の取組内容や課題等を把握するため、国内の先進事例を調査しました。

表 調査対象駅

新幹線駅		開業年	駅所在地	人口(H27)
北海道新幹線	新函館北斗	平成28年3月	北斗市	46,416人
東北新幹線	新青森	平成22年3月	青森市	287,622人
	七戸十和田	平成22年3月	七戸町	15,719人
	八戸	平成22年3月	八戸市	231,379人
九州新幹線	新八代	平成16年3月	八代市	127,540人

各駅の2次交通手段をまとめると、下表に示すとおり、交通手段別に鉄道、バス、タクシー、レンタカーの4つに整理されます。その中から特徴的な取組を目的別に整理すると、大きく「2次交通手段の確保」「公共交通の利用促進」「情報発信」の3つに分けられ、さらに細かく分類し、全部で8つの取組に整理しました。

表 2次交通対策の調査結果

【各駅における2次交通手段】

駅名	鉄道	バス			タクシー		レンタカー
		生活交通 (路線バス等)	市内観光 交通	都市間 バス	タクシー	乗合タクシー	
新函館北斗	●	●	●	●	●	-	●
新青森	●	●	●	●	●	●	●
七戸十和田	-	●	-	●	●	●	●
八戸	●	●	●	●	●	●	●
新八代	●	●	-	●	●	-	●

特徴的な2次交通対策の取組を目的別に整理

【特徴的な2次交通対策の取組】

駅名	1) 2次交通手段の確保						2) 公共交通 の利用促進	3) 情報 発信
	【移動先】 新駅と中心市 街地	【移動先】 新駅と中心市 街地・観光地等	【移動先】 新駅と観光 地	【移動先】 新駅と夜間 における市街地	【移動先】 新駅から観 光地の周遊	【移動先】 新駅と周辺 都市		
	①中心市街 地と結ぶバ ス路線の強 化	②中心市街 地及び観光 地等を結ぶ バスの運行	③観光地と ダイレクトに 結ぶバスの 運行	④バスが接 続しない時 間帯に合わ せた交通手 段(タクシー) の確保	⑤観光客向 けのタクシー サービスの 提供	⑥新幹線沿 線外の地域 と結ぶ広域 交通手段(バ ス・タクシー) の確保		
新函館北斗	-	●市内	○市内	-	●広域	●広域	-	○
新青森	-	●市内	-	○市内	●市内	○広域	-	○
七戸十和田	-	-	●広域	●広域	-	●広域	-	○
八戸	●市内	-	●市内	●市内	○市内	-	●市内	●
新八代	-	-	-	-	-	●広域	-	○

※●：今回分析した事例 ○：2次交通としては確保されている

(2)事例

1) 新函館北斗駅

①概要



写真：JR 北海道新幹線スペシャルサイト

- ◆所在：
北海道北斗市
(H27:46,416 人)
- ◆開業年度：
2016 年(H28 年)
新幹線の延伸開業
- ◆乗降人員：
新青森～新函館北斗間
1 日平均 約 5,600 人
(開業 3/26～4/25 の 1 ヶ月間)
資料:JR 北海道プレスリリース
- ◆在来線
函館本線
はこだてライナー

②新幹線駅の立地状況

旧渡島大野駅に整備され、北斗市の旧大野町市街から約 3km、旧上磯町市街から約 12km、函館駅から約 21km 離れた市街地の縁辺部に位置している。



③2次交通

駅名	鉄道	バス			タクシー		レンタカー
		生活交通 (路線バス等)	市内 観光交通	都市間 バス	タクシー	乗合 タクシー	
新函館北斗	・はこだてライナー ・函館本線	・路線バス(函館市街、湯の川、函館空港)	- ※函館市内の観光路線バスは運行	・路線バス ・高速はこだて号 ・函館特急ニュースター号	・定額タクシー(函館市)	-	○

④ 2次交通に関する特徴的な取組

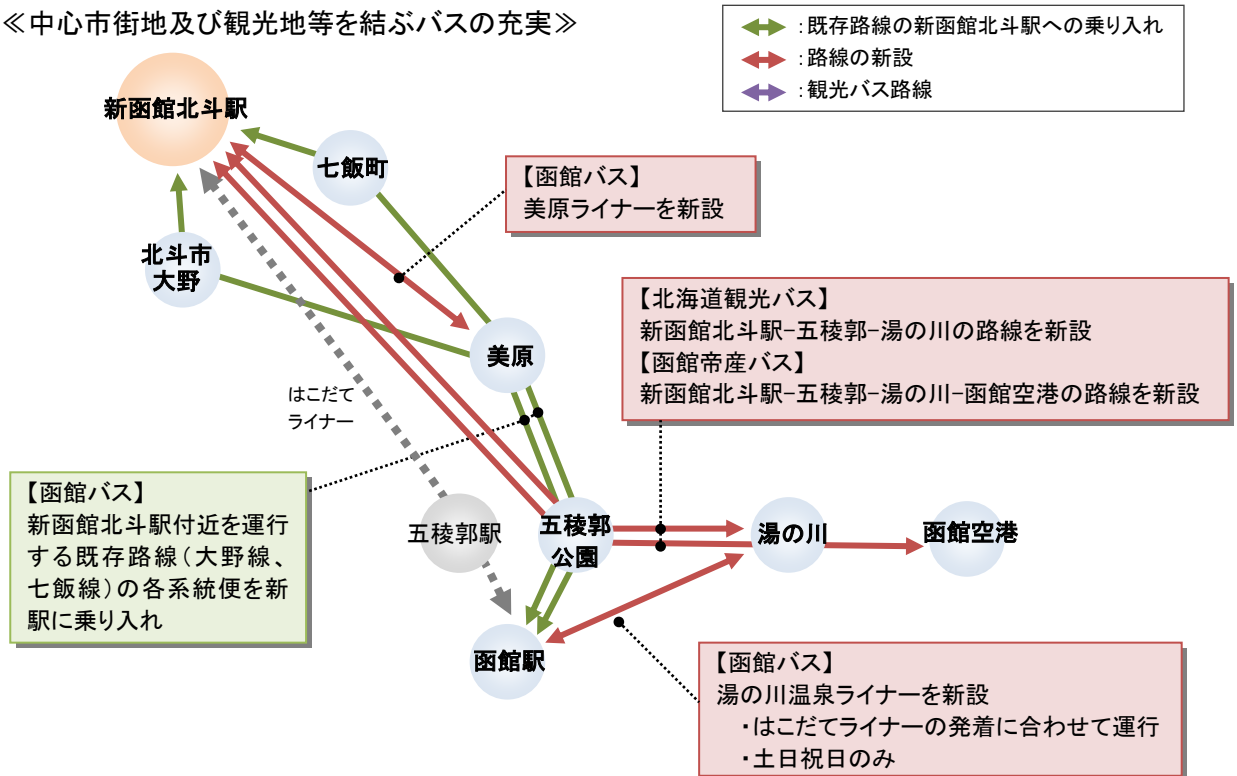
ア 既存路線の見直し・新規路線の開設

【2次交通手段の確保 1）②中心市街地及び観光地等を結ぶバスの運行】

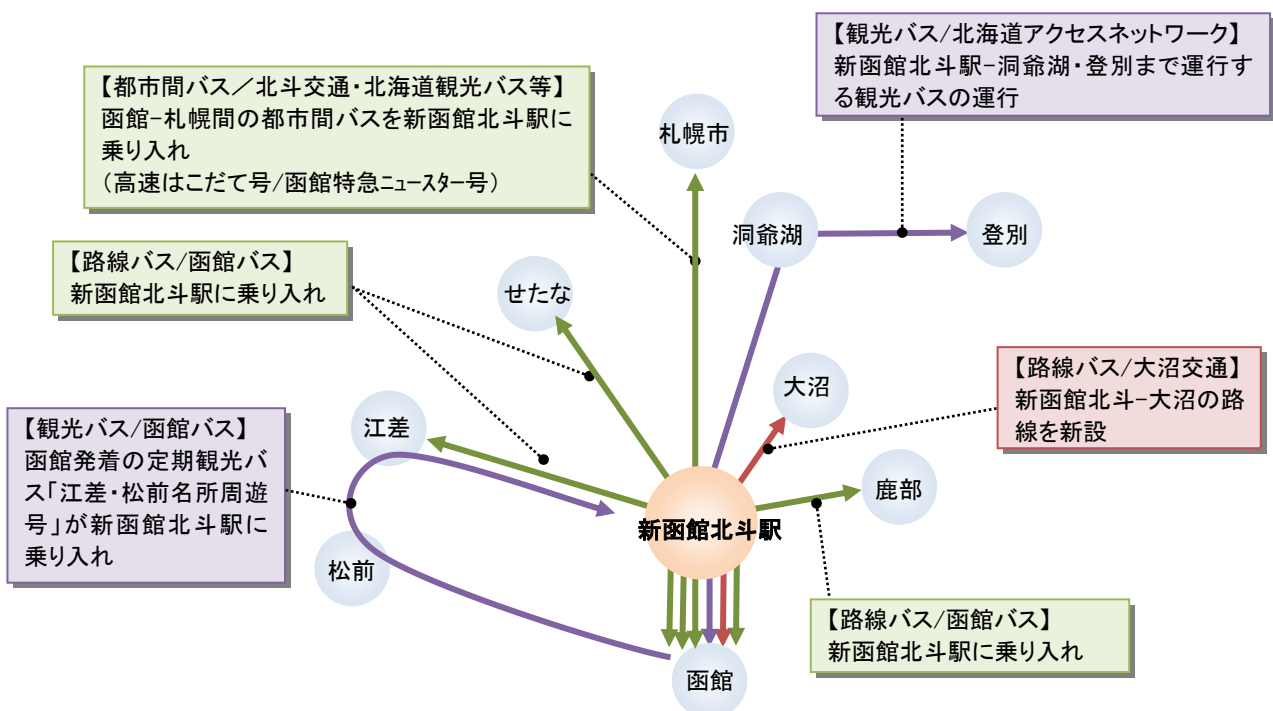
【2次交通手段の確保 1）⑥新幹線沿線外の地域と結ぶ広域交通手段の確保】

各バス会社により、既存バス路線の新函館北斗駅への乗り入れや、新函館北斗駅と五稜郭や函館駅、函館空港等と結ぶ新規路線が開設されています。

《中心市街地及び観光地等を結ぶバスの充実》



《広域交通の充実》



イ. 定額タクシーの運行

【2次交通手段の確保 1) ⑤観光客向けのタクシーサービスの提供】

新函館北斗駅から、函館市内や近郊エリアにおいて定額制のタクシーが運行されています。

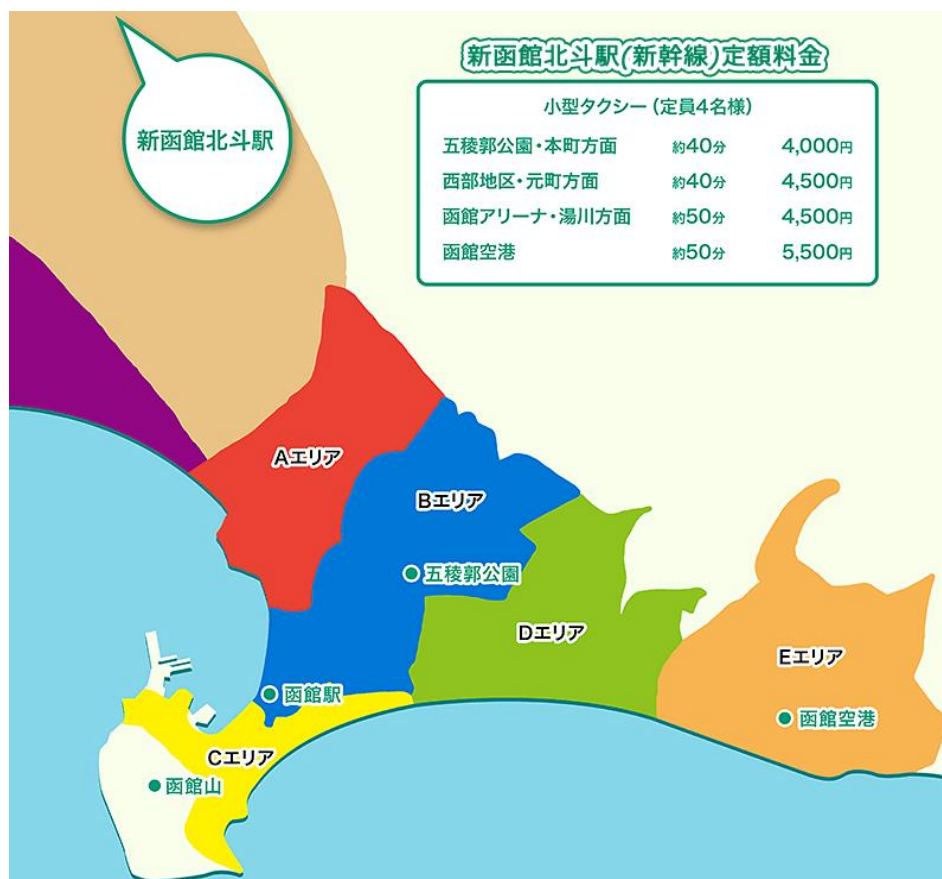


図 エリア範囲

資料：「らくらくタクシー」ホームページより

事業主体	函館タクシー、道南ハイヤーなど		
所要時間	ルート	所要時間	料金
運賃	新函館北斗駅 ⇄ A エリア	-	3,500 円
	新函館北斗駅 ⇄ B エリア	約 40 分	4,000 円
	新函館北斗駅 ⇄ C エリア	約 40 分	4,500 円
	新函館北斗駅 ⇄ D エリア	約 50 分	4,500 円
	新函館北斗駅 ⇄ E エリア	約 50 分	5,500 円
利用方法	事前予約		
エリアの範囲	A エリア	津軽海峡フェリー・北大水産学部エリア	
	B エリア	五稜郭公園・オーシャンスタジアム又は本町周辺ホテルエリア	
	C エリア	函館駅又は周辺ホテル・ベイエリアエリア・函館山ロープウェイエリア ※函館山山頂は除く。	
	D エリア	湯の川温泉周辺ホテル又は函館アリーナ・競馬場エリア	
	E エリア	函館空港又はトラピスチヌ修道院エリア	

2) 新青森駅

①概要



- ◆所在：
青森県青森市
(H27:287,622人)
- ◆乗降人員：
1日平均 9,700人/日
(2014年度/JR東日本)
- ◆開業年度：
2010年(H22年)
新幹線の延伸開業
- ◆在来線
奥羽本線

②新幹線駅の立地状況

中心市街地に位置する青森駅から約5km離れた郊外部に立地しています。



図 新幹線駅の立地状況

③2次交通手段

駅名	鉄道	バス			タクシー		レンタカー
		生活交通 (路線バス等)	市内観光 交通	都市間 バス	タクシー	乗合タクシー	
新青森	奥羽本線	路線バス(市中心部、浅虫温泉等方面)	・びゅうバス ・ <u>ねぶたん号</u>	路線バス(十和田湖、十和田市方面)	<u>駅から</u> <u>観タクン</u>	・弘前市方面 ・西目屋村方面	○

④ 2次交通に関する特徴的な取組

ア 「ねぶたん号」の運行

【2次交通手段の確保 1) ②中心市街地と観光地等を結ぶバスの運行】

新青森駅と中心市街地（JR 青森駅）、主要観光施設を結ぶ観光ルートバス『あおもりシャトル de ルートバス（ねぶたん号）』が運行されています。

事業主体	青森観光バス
運賃	<ul style="list-style-type: none"> ・1回乗車 : 大人 200 円・小学生 100 円・未就学児童無料 ・1日乗車券 : 大人 500 円・小学生 250 円・未就学児童無料
運行便数	コース1:5便/日 コース2:5便/日、コース3:1便/日、コース4:1便/日、コース5:1便/日
所要時間	新青森駅→青森駅:25分 三内丸山遺跡前(始点)→棟方志功記念館前(終点):50分
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・一日乗車券は、「ねぶたん号」車内、青森市観光交流情報センター(青森駅前)、主要観光施設、主要宿泊施設で購入可能。 ・団体割引(10名以上、一日乗車券のみ適用の団体割引制度) <ul style="list-style-type: none"> 普通(一般) 10名以上…10%割引 15名以上…15%割引 学生(小学生、中学生、高校生)10名以上…15%割引 15名以上…20%割引 ・福祉割引(対象者(身体障害者手帳保持者、精神障害者保健福祉手帳保持者、療育手帳保持者)および付添人(対象者1名につき1名)に対し、通常運賃の半額)



図 ねぶたん号

資料：青森市ホームページ

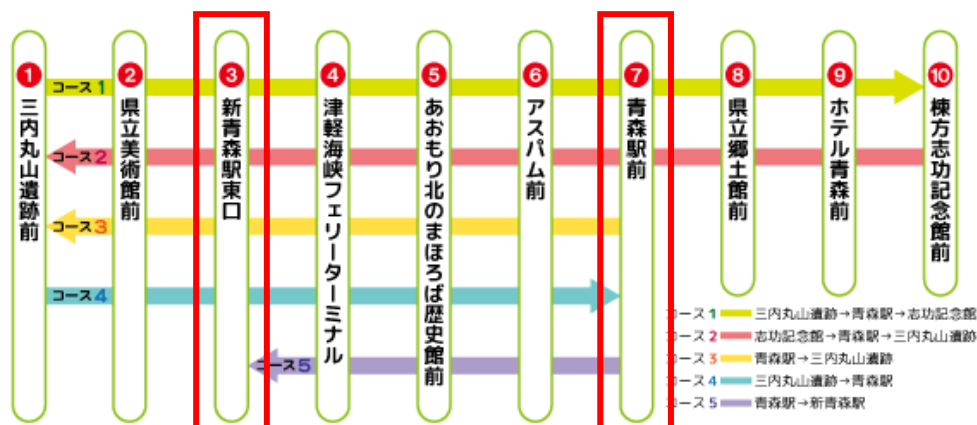


図 ねぶたん号ルート図

資料：青森観光バスホームページ

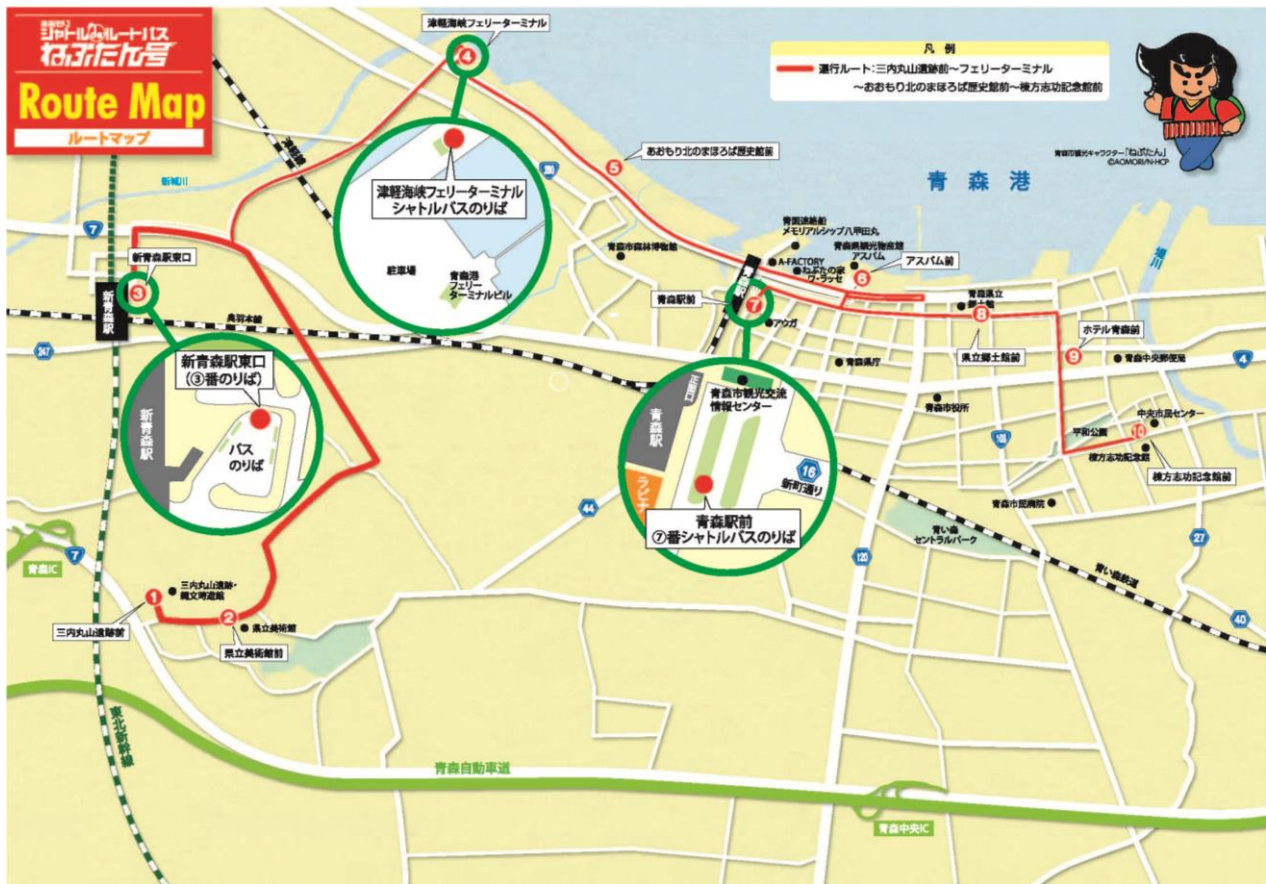


図 ねぶたん号ルートマップ

資料：青森観光バスホームページ

運行ダイヤ								※交通状況により通過時間が遅れる場合がございます。								
三内丸山遺跡前→棟方志功記念館前 方面								棟方志功記念館前→三内丸山遺跡前 方面								
番号	停留所	時刻						番号	停留所	時刻						
		コース1	コース2	コース3	コース4	コース5	コース6			コース7	コース8	コース9	コース10			
1	三内丸山遺跡前	10:30	11:50	13:30	14:50	15:50	17:10	10	棟方志功記念館前	-	10:40	11:40	13:00	14:40	16:10	-
2	県立美術館前	10:32	11:52	13:32	14:52	15:52	17:12	9	ホテル青森前	-	10:44	11:44	13:04	14:44	16:14	-
3	新青森駅東口	10:43	12:03	13:43	15:03	16:03	17:23	8	県立郷土館前	-	10:46	11:46	13:06	14:46	16:16	-
4	津軽海峡フェリーターミナル	10:53	12:13	13:53	15:13	16:13	17:33	7	青森駅前	9:10	10:50	11:50	13:10	14:50	16:20	17:50
5	あおもり北のまほろば歴史館前	10:57	12:17	13:57	15:17	16:17	17:37	6	アスパム前	9:15	10:55	11:55	13:15	14:55	16:25	17:55
6	アスパム前	11:03	12:23	14:03	15:23	16:23	17:43	5	あおもり北のまほろば歴史館前	9:21	11:01	12:01	13:21	15:01	16:31	18:01
7	青森駅前	11:08	12:28	14:08	15:28	16:28	17:48	4	津軽海峡フェリーターミナル	9:25	11:05	12:05	13:25	15:05	16:35	18:05
8	県立郷土館前	11:12	12:32	14:12	15:32	16:32	-	3	新青森駅東口[着]	9:35	11:15	12:15	13:35	15:15	16:45	18:15
9	ホテル青森前	11:14	12:34	14:14	15:34	16:34	-		[発]	10:10						
10	棟方志功記念館前	11:20	12:40	14:20	15:40	16:40	-	2	県立美術館前	10:21	11:26	12:26	13:46	15:26	16:56	-
								1	三内丸山遺跡前	10:23	11:30	12:30	13:50	15:30	17:00	-

※新青森駅東口9:35の便は、35分待機して10:10発の便となります。

図 ねぶたん号運行ダイヤ

資料：青森観光バスホームページ

イ JRによる「駅から観タクン」の運行

【2次交通手段の確保 1) ⑤観光客向けのタクシーサービスの提供】

JRが提供する観光商品で、駅を降りてから観光地を周遊する観光タクシーが運行されています。

事前予約は不要で、1台当たり1～4名が定額で乗車できます。「青森県 新青森駅発コース」では、タクシー1台1回当たり、2時間6,000円、3時間9,000円となっています。

当日、駅のみどりの窓口やびゅうプラザで希望コースのタクシー券を購入し、駅のタクシー乗り場から乗車します。ただし、ドライバーによる観光ガイドはありません。

3) 七戸十和田駅

①概要



- ◆所在：
青森県七戸町
(H27:15,719人)
- ◆開業年度：
2010年(H22年)
新幹線の延伸開業
- ◆乗降人員：
1日平均 712人/日
(2014年度/JR東日本)
- ◆在来線
なし

②新幹線駅の立地状況

七戸町役場のある市街地から約3.3km、十和田市街から約15km離れた場所に立地しています。

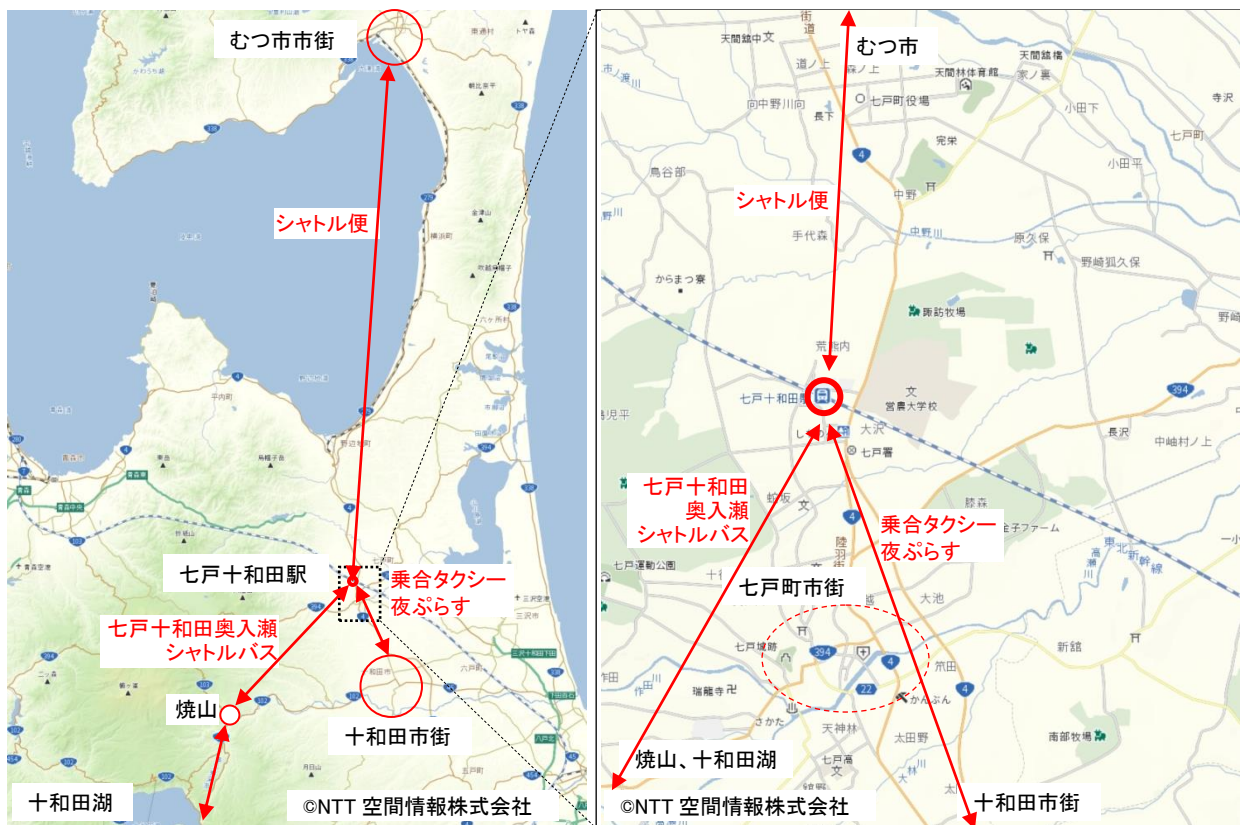


図 新幹線駅の立地状況

③2次交通

駅名	鉄道	バス			タクシー		レンタカー
		生活交通 (路線バス等)	市内観光交通	都市間バス	タクシー	乗合タクシー	
七戸十和田	-	・路線バス(町内) ・コミュニティバス(町内)	-	・路線バス(十和田市、新青森駅方面) ・七戸十和田奥入瀬シャトルバス	○	・夜ぶらす(十和田市) ・シャトル便(むつ市)	○

④ 2次交通に関する特徴的な取組

ア 「乗合タクシー夜ぶらす」の運行 <広域対応>

【2次交通手段の確保 1）④バスが接続しない時間帯に合わせた交通手段（タクシー）の確保】

新幹線の時間帯に合わせて、十和田市街まで路線バスが運行していますが、路線バスが接続しない夜の時間帯は、定額制の乗合タクシーが十和田市街まで運行しています。

事業主体	七戸十和田地域公共交通会議（運行事業者:南部縦貫タクシー）
運賃	・大人 1,500 円(6 歳未満無料) ※通常のタクシー料金では 3,500 円かかる。
運行便数	・2 便/日 ※年中無休、予約不要
所要時間	七戸十和田→十和田市街:約 30 分
その他	

【七戸十和田駅→十和田市内】 【十和田市内→七戸十和田駅】
1 番のりば

行先	七戸十和田駅	十和田市駅	十和田市中	行先	十和田市中	十和田市駅	七戸十和田駅
	6:55*	7:26*	7:31*		6:46	6:52	7:22
	7:25	7:56	8:01		7:41	7:47	8:17
	9:12*	9:50*	10:02*		9:24	9:30	10:00
	9:57	10:20	10:25		11:17*	11:30*	12:07*
	10:09	10:40	10:52		12:17	12:30	13:00
	11:09	11:40	11:52		14:17	14:30	15:00
	12:29	13:00	13:12		15:17*	15:30*	16:07*
	13:22*	14:00*	14:12*		16:55	17:00	17:23
	14:37	15:00	15:05		17:07	17:20	17:50
	15:39	16:10	16:15		17:55	18:00	18:23
	16:37	17:00	17:05		18:44*	18:50*	19:20*
	18:09	18:40	18:45		19:44	19:50	20:20
	19:32	19:55	20:00				

※ 土曜・日曜・祝日運休

図 路線バス時刻表

新幹線名	新幹線到着時刻	夜プラス発車時刻
新青森発はやぶさ96号	20:54 着	21:31 頃
東京発はやぶさ31号	21:21 着	
新青森発はやて98号	22:01 着	23:30 頃
東京発はやぶさ35号	23:20 着	

図 夜ぶらす時刻表

資料：七戸十和田地域公共交通会議「乗合タクシー夜ぶらす」パンフレット

イ 「七戸十和田^{おいらせ}奥入瀬シャトルバス」の運行 <広域対応>

【2次交通手段の確保 1）③観光地とダイレクトに結ぶバスの運行】

七戸十和田駅と奥入瀬溪流の玄関口である十和田湖温泉郷(焼山)を結ぶシャトルバスが、GW 期間中や夏季観光シーズン中は運行されています。焼山から奥入瀬溪流、十和田湖へは、JR バスに乘換えとなります。

事業主体	・十和田観光電鉄(株) ・七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行協議会(十和田市企画財政部政策財政課内)
運賃	・片道 500 円 ※未就学時は無料 ・七戸十和田駅⇄東八甲田ローズカントリー :片道 200 円 ・東八甲田ローズカントリー⇄十和田湖温泉郷(焼山):片道 300 円
運行便数	・七戸十和田→十和田湖温泉郷(焼山):3 便/日(うち 1 便は特定の運行日のみ) ・七戸十和田←十和田湖温泉郷(焼山):4 便/日(うち 1 便は特定の運行日のみ) ※事前予約不要 ※運行期間(H28 年の場合):H28.4.29~H28.5.8 H28.6.17~H28.10.31
所要時間	・七戸十和田駅⇄十和田湖温泉郷(焼山)が 58 分。
その他	



図 運行ルート

資料：「七戸十和田奥入瀬シャトルバス」パンフレット（平成 28 年）

七戸十和田駅⇒十和田湖温泉郷(焼山)										
東北新幹線(下り)				シャトルバス				JRバス		
列車名	東京駅発	仙台駅発	七戸十和田駅着	七戸十和田駅(南口)発	東八甲田コースカントリー発	十和田湖温泉郷発	焼山着	運行日	焼山発	十和田湖着
はやぶさ1号	6:32	8:06	9:34	(9:55)	(10:05)	(10:51)	(10:53)	平成28年6月25日(出)・26日(回)・7月2日(出)・3日(回)・10月15日(出)・16日(回)・22日(出)・23日(回)・29日(出)・30日(回)のみ運行します	11:05 ※11:13	11:50 ※11:58
はやぶさ3号	7:36	9:12	10:44	11:05	11:15	12:01	12:03	平成28年4月29日(金)～5月8日(日) 6月17日(金)～10月31日(月)	12:18	13:03
はやぶさ17号	11:20	12:54	14:27	14:45	14:55	15:41	15:43	平成28年4月29日(金)～5月8日(日) 6月17日(金)～10月31日(月)	15:58	16:43
※4月23日～5月8日、6月23日～7月5日、7月16日～9月7日、9月17日～11月6日運行										
十和田湖温泉郷(焼山)⇒七戸十和田駅										
JRバス		シャトルバス				東北新幹線(上り)				
十和田湖発	焼山着	焼山発	十和田湖温泉郷発	東八甲田コースカントリー発	七戸十和田駅(南口)着	運行日	列車名	七戸十和田駅発	仙台駅着	東京駅着
※8:00 8:30	※8:41 9:11	9:20	9:22	10:08	10:18	平成28年4月29日(金)～5月8日(日) 6月17日(金)～10月31日(月)	はやぶさ16号	10:54	12:29	14:04
12:10	12:51	13:20	13:22	14:08	14:18	平成28年4月29日(金)～5月8日(日) 6月17日(金)～10月31日(月)	はやぶさ24号	14:53	16:29	18:04
14:20	15:04	(15:20)	(15:22)	(16:08)	(16:18)	平成28年6月25日(出)・26日(回)・7月2日(出)・3日(回)・10月15日(出)・16日(回)・22日(出)・23日(回)・29日(出)・30日(回)のみ運行します	はやぶさ28号	16:53	18:29	20:04
15:05 15:20	15:46 16:01	16:20	16:22	17:08	17:18	平成28年4月29日(金)～5月8日(日) 6月17日(金)～10月31日(月)	はやぶさ32号	17:59	19:29	21:04
※4月23日～5月8日、6月23日～7月5日、7月16日～9月7日、9月17日～11月6日運行										

図 運行ダイヤ

資料：「七戸十和田奥入瀬シャトルバス」パンフレット（平成 28 年）

ウ 「シャトル便（七戸十和田⇔むつ市）」の運行 <広域対応>

【2次交通手段の確保 1）⑥新幹線沿線外の地域と結ぶ広域交通手段の確保】

七戸十和田駅からむつ市へ結ぶ、完全予約制の乗合タクシー「シャトル便」が運行されています。

事業主体	・尻屋観光
運賃	・七戸十和田駅 ⇔ むつ主要部・東通:大人 3,800 円 小児:1,900 円 ・七戸十和田駅 ⇔ 近川地区 :大人 3,600 円 小児:1,800 円 ・七戸十和田駅 ⇔ 横浜地区 :大人 3,400 円 小児:1,700 円
運行便数	・3 往復/日
所要時間	・むつ市まで約 1 時間半。
その他	

七戸十和田駅シャトル便【上り】※七戸十和田駅行き						
新幹線便名	シャトル便 むつ市内 出発時間	シャトル便 近川地区 通過時間	シャトル便 横浜地区 通過時間	シャトル便 七戸十和田 到着	新幹線 七戸十和田駅 出発	新幹線 東京到着
はやぶさ16号	9:00	9:15	9:30	10:30	10:54	14:04
はやぶさ24号	13:00	13:15	13:30	14:30	14:53	18:04
はやぶさ36号	17:00	17:15	17:30	18:30	18:53	22:04
七戸十和田駅シャトル便【下り】※下北行き						
新幹線便名	新幹線 東京駅発	新幹線 七戸十和田駅 到着	シャトル便 七戸十和田 駅発	シャトル便 横浜地区 通過時間	シャトル便 近川地区 通過時間	シャトル便 むつ市内 到着時間
はやぶさ3号	7:36	10:44	11:00	12:00	12:15	12:30
はやぶさ17号	11:20	14:27	14:45	15:45	16:00	16:15
はやぶさ25号	15:20	18:27	18:45	19:45	20:00	20:15

図 時刻表

資料：尻屋観光ホームページ

4) 八戸駅

①概要



- ◆**所在:**
青森県八戸市
(H27:231,379人)
- ◆**乗降人員:**
1日平均 7,196人/日
(2014年度/JR東日本)
- ◆**開業年度:**
2002年(H14年)
新幹線延伸開業
- ◆**在来線:**
八戸線

②新幹線駅の立地状況

中心市街地に位置する本八戸駅から約5km離れた郊外部に立地しています。



図 新幹線駅の立地状況

③2次交通

駅名	鉄道	バス			タクシー		レンタカー
		生活交通 (路線バス等)	市内観光 交通	都市間 バス	タクシー	乗合タクシー	
七戸十和田	青い森鉄道	路線バス(中心街方面等)	100円バス	路線バス(五戸町、十和田市等方面)	駅から観タクン	シntaxン	○

④ 2次交通に関する特徴的な取組

ア 八戸駅⇔中心街間の10分間隔運行

【2次交通手段の確保 1) ①中心市街地と結ぶバス路線の強化】

市営バスと南部バスが、平成20年4月から「八戸駅線(根城大橋・^{たものき}田面木経由)」の共同運行を実施し、八戸駅～中心街間の等間隔運行(10分間隔)をしています。

八戸駅⇔中心街間で「共通定期券」を販売しており、市営バスも南部バスも同じ定期券で両方使えます。

事業主体	・市営バス、南部バス(共同運行)
運賃	・八戸駅⇔中心街ターミナル:300円
運行便数	・八戸→中心街(八日町) : 43~47便/日
所要時間	・八戸→中心街:約14~16分
その他	

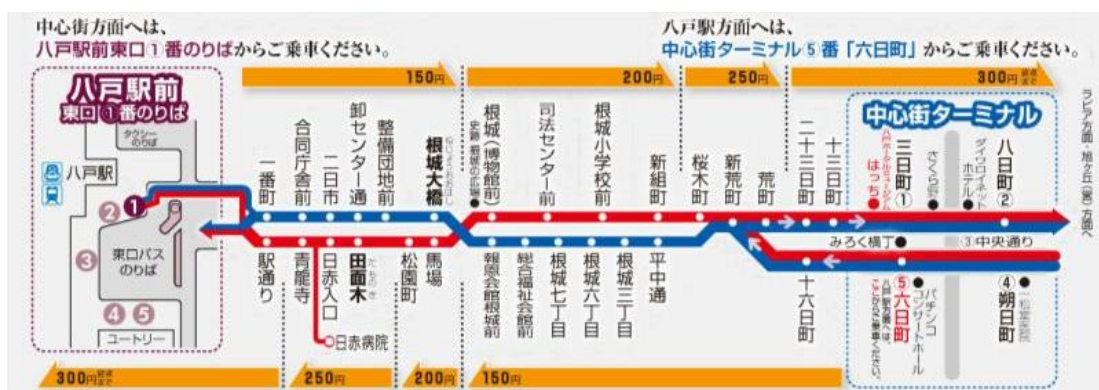


図 「八戸駅線」路線図

資料：市営バス・南部バス 八戸駅⇔中心街間の10分間隔運行携帯用”ミニ”時刻表

イ 「^{はっしょく}八食100円バス」の運行

【2次交通手段の確保 1) ③観光地へダイレクトに結ぶバスの運行】

新幹線八戸駅開業に合わせて、八戸港で水揚げされたばかりの新鮮な魚介類や生鮮野菜、県南地方の物産やお土産などがそろった大型市場である「八食センター」と八戸駅を結ぶバスが運行されています。1日片道10便で、平日、土曜日、日祝日も同じ時刻で運行しています。

事業主体	・南部バス
運賃	・八戸駅⇔八食センター:100円
運行便数	・八戸→八食センター : 10往復
所要時間	・八戸→八食センター:11分
その他	



資料：八食センターオンラインショッピングHP



図 八食 100 円バスのルート

資料：南部バス㈱ホームページ

ウ 「わくわく♪日帰り路線バスパック」の提供

【公共交通の利用促進 2) ①観光・商業施設等との連携】

路線バスを使って、八戸市内や周辺都市に気軽に日帰り旅行を楽しめる企画商品が提供されています。

バスの往復乗車券と施設利用券や割引券が一体となったバスパックを購入することで、利用者は通常価格よりも安く施設などを利用することができます。

バスパックには、事前にチケットを購入する「チケット購入タイプ」と、チケットの事前購入は不要で、バスを降車する際に運転手からクーポン券を受け取るだけの「クーポン券タイプ」の2種類があります。

バスパックの内容、利用の仕方及び時刻表をセットにしチラシを作成し周知を図っています。



図 各バスパックのチラシ（八戸駅発）

資料：八戸市地域公共交通会議「八戸公共交通ポータルサイト」



(例) 十和田市現代美術館バスパック

- セット内容：十和田市現代美術館観覧割引引換券（常設展）
＋十鉄バス往復割引乗車券のセット

料 金：	パック料金	通常料金
大人	2,650 円	3,010 円

図 チケット見本（左）とセット内容（右）

資料：八戸市地域公共交通会議「八戸公共交通ポータルサイト」

オ バスマップなどの作成・配布による周知

【情報発信 3）①積極的なPR・周知】

東北新幹線全線開業に合わせて、八戸駅東口・本八戸駅北口から発着するバス路線の情報に関するわかりやすいリーフレットを制作し、周知を図っています。

そのほか、路線バスを使って、地域を旅するためのガイドブック「バスさんぽ」を制作し、路線バスの利用促進を図っています。

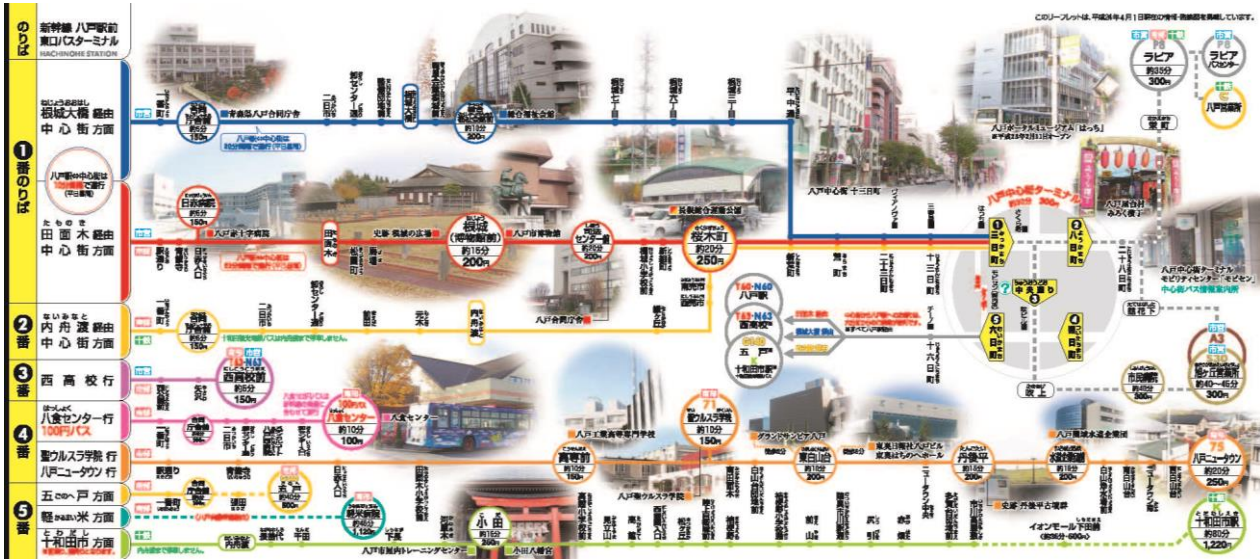


図 「路線バスで行く八戸旅ガイド」

資料：八戸市「八戸公共交通ポータルサイト」

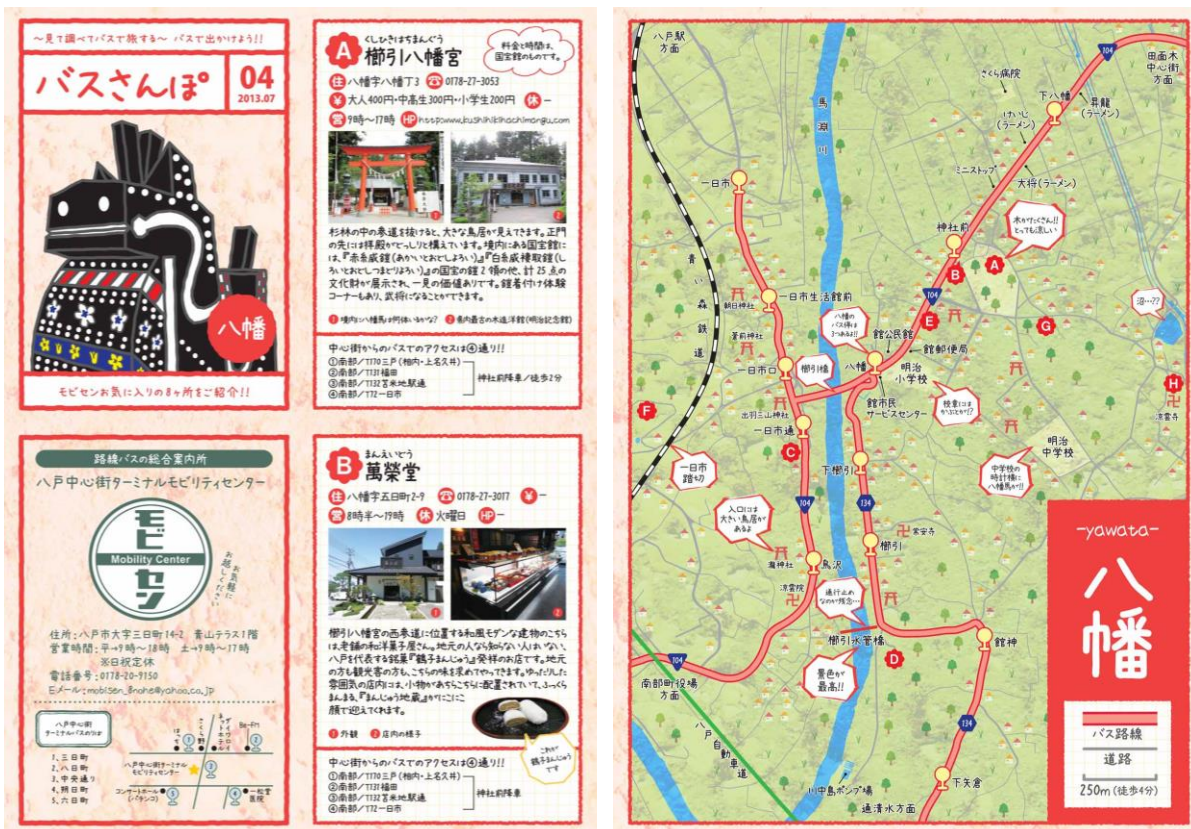


図 「バスさんぽ」リーフレット

資料：八戸市「八戸公共交通ポータルサイト」

5) 新八代駅

①概要



◆所在:

熊本県八代市
(H27:127,540 人)

◆開業年度:

2004 年(H16 年)

◆乗降人員:

1 日平均 1,935 人/日 ,
(2014 年度/JR 九州)

◆在来線

鹿児島本線

②新幹線駅の立地状況

八代市の中心駅である八代駅は中心市街地から約 2km 離れたところに位置し、新八代駅は、八代駅から約 2~3km の距離に新八代駅が立地しています。近くには八代 IC があります。



図 新幹線駅の立地状況

③2次交通

駅名	鉄道	バス			タクシー		レンタカー
		生活交通 (路線バス等)	市内観 光交通	都市間 バス	タクシー	乗合タクシー	
新八代	鹿児島本線	・路線バス (市内) ・循環バス (中心部)	-	高速バス B&S みやざき	○	-	○

④ 2次交通に関する特徴的な取組

ア 高速バス「B&S みやざき」の運行 <広域対応>

【2次交通手段の確保 1) ⑥新幹線沿線外の地域と結ぶ交通手段の確保】

九州新幹線の沿線から外れている宮崎方面へのバスネットワークを確立するため、新八代駅から宮崎までを結ぶ高速都市間バスが運行しています。博多駅～新八代駅～宮崎まで最速2時間59分です。

また、バス車両はインダストリアルデザイナー監修によってデザインされた車両を導入しており、バス車両自体の魅力化も図っています。

事業主体	・ JR九州バス(株)、産交バス(株)、宮崎交通(株)
運賃	<ul style="list-style-type: none"> ・ B&S みやざきネットきっぷ 博多駅→宮交シティ・宮崎駅：7,000円（小児：3,500円） （新幹線（博多～新八代）＋バス片道（新八代～宮崎）） ・ B&S みやざき2枚きっぷ 福岡市内→宮交シティ・宮崎駅：14,000円 ・ B&S みやざき早特往復きっぷ （帰りの1か月前から発売。行きの日前までに購入が必要） 福岡市内→宮交シティ・宮崎駅：10,290円 ※座席指定制、要予約
運行便数	・ 1日16往復（概ね1時間当たり上下各1本）
所要時間	・ 新八代⇄宮崎：2時間5分
その他	



図 路線図

資料：JR九州バスホームページ



図 車両イメージ

資料：JR九州バスホームページ

(3)事例調査の整理と小樽市への応用

以上の2次交通手段の取組事例について、以下のように整理するとともに小樽市における応用について検討しました。

①2次交通手段の確保

ア. 中心市街地と結ぶバス路線の強化

八戸市は、新幹線の八戸駅と市の中心市街地にある本八戸駅が離れている都市構造にありますが、既存のバスの運行体系を活用しながら、八戸駅から中心市街地を結ぶバス路線を強化し、10分に1本の便数を確保することで、利便性の強化を図っています。

- 開業当初は、既存のバス路線に新幹線シャトルバスを増便しましたが、路線バスとの差別化が図られなかったことから廃止となっています。市内バス路線のわかりづらさ、事業者別のバス乗り場、観光客のみを対象とした路線設定なども廃止につながった要因であると考えられます。
- その後の見直しによって、等間隔運行・共同運行となり、「10分待てばバスが来る」というわかりやすさと安心感が利用者の増加につながっています。まずは生活交通としてきちんと利用されることが路線の維持につながり、観光客の交通手段を確保することになると考えられます。

【小樽市への応用】新小樽（仮称）駅と小樽駅を結ぶ交通手段の強化

市内各地域からのアクセス強化

- 新小樽（仮称）駅周辺地域は、北海道中央バスの「奥沢線」が小樽駅を結ぶ路線として、日中は15分間隔で運行されています。
- 新小樽（仮称）駅の利用客がすぐに目的地に向かうことができるよう、既存路線バス利用者（住民）の利便性の確保を前提としながら、既存路線バスの強化が有効と考えられます。
- また、市民が新小樽（仮称）駅へ向かう交通利便性を高めるため、市内各地域から新小樽（仮称）駅まで向かうバス路線の再編や乗継利便性の向上などが必要と考えられます。

イ. 中心市街地と観光地等を巡るバスの運行

新青森駅では、新幹線駅と中心市街地（JR 青森駅）、市内の観光地を結ぶシャトルバスの運行により、市内観光の利便性の向上を図っています。

- 青森駅や新青森駅から距離のある観光地同士を結んでおり、新青森駅を降りてから観光する際は、利便性が高いと考えられます。
- さらに、1日乗車券を利用すれば、安価で青森市内の観光地を巡回することができます。

【小樽市への応用】市内各観光地へアクセスするバス交通の充実

- ・小樽市は市内各地に観光地があり、現在、これらの観光地を巡るバスが運行されています。観光客を新幹線駅から小樽駅と各観光地をアクセスすることができるよう、新小樽（仮称）駅と小樽駅、各観光地を巡回する路線を設定することは有効と考えられます。

ウ. 観光地とダイレクトで結ぶバスの運行

七戸十和田駅では、GWと夏季の観光シーズンにおいて十和田湖と結ぶバスを運行し、新幹線駅から離れた観光地との交通手段を確保しています。

八戸市では、新幹線のダイヤに合わせて、観光地となっている八食センターと八戸駅を結ぶ、安価な定額のバスを運行しており、観光客の利便性を高めています。

- 八戸駅から八食センターに向かうためには、市内の交通拠点となっている中心街を経由して向かうと遠回りとなるため、八戸駅から直接向かうバスが運行することで、観光客の利便性を高めています。さらに、八食センターから中心街まで向かう場合も、「200円バス」という同様の定額制のバスを運行することで、八戸駅⇄八食センター⇄中心街の往来がわかりやすく、利用客の利便性を高めています。
- 七戸十和田駅では、観光シーズンにしばって運行しており、利用者のニーズと運行事業者の負担のバランスをとりながら運行していくことが必要と考えられます。

【小樽市への応用】市内各観光地へアクセスするバス交通の充実

- ・新小樽（仮称）駅から、市内の各観光地へ向かう場合、例えば朝里川温泉地域や天狗山地域へのアクセスについては、小樽駅経由だと遠回りとなるため、新小樽（仮称）駅からダイレクトに結ぶ交通手段の確保が有効と考えられます。

エ. バスが接続しない時間帯に合わせた交通手段の確保

七戸十和田駅や八戸駅では、路線バスが接続しない夜の時間帯において、新幹線駅から市内や周辺都市まで乗合タクシーを運行しています。経費面からバスによる運行ではなく、乗合タクシーを導入しており、利用者の変動に対し、柔軟に対応できる交通手段を確保しています。

- バスとタクシーの役割分担により、利用者の利便性と交通事業者の事業性の両立を図っており、継続的に運行できる体制となっています。

【小樽市への応用】タクシーサービスの充実

- ・現「奥沢線」の小樽駅行の最終便は 21 時台となっており、それ以降に新幹線が到着する場合には、乗合タクシー等による交通手段の確保が有効と考えられます。

オ. 観光客向けのタクシーサービスの提供

新青森駅や八戸駅では、JRによる「駅から観タクン」など、タクシーによる個人客などをターゲットにした周遊観光の交通手段を確保しています。

- 事前予約不要で利用できるため、バスや電車などの乗り継ぎ時間や天候等によるダイヤ変更などにも柔軟に対応できるとともに、4人で利用すれば1人当たりの費用を抑えられるなど、個人客や少人数の観光において利便性の高い交通サービスと考えられます。



【小樽市への応用】タクシーサービスの充実

- ・ 個人や少人数の観光客をターゲットに、小樽市内の各観光地を巡る際の交通手段としてタクシーサービスの充実を図ることが有効と考えられます。

カ. 新幹線沿線外の地域と結ぶ広域交通手段の確保

七戸十和田駅では、十和田湖や下北地域など新幹線駅から離れた観光地と結ぶバスや乗合タクシーの運行によって交通手段を確保しています。

新八代駅では、周辺都市と結ぶバス路線を3事業者によって共同運行し、広域観光を支える交通手段を確保することによって、観光の利便性を確保しています。

- 新幹線沿線外の地域との交通手段を確保することにより、新幹線の開業効果を直接受けにくい周辺市町村へ観光客を誘導しています。広域エリア全体からみた交通利便性の向上によって、新幹線駅利用客（観光客）の増大へつなげることができると考えられます。



【小樽市への応用】北後志地域等との広域交通の連携強化

- ・ 北後志地域や岩宇地域には様々な観光資源を有しており、観光の利便性を高めるためには、エリア全体の周遊性を高める必要があります。
- ・ 北後志地域や岩宇地域と結ぶ既存の路線バス強化や定期観光バス、乗合タクシーの運行などが有効と考えられます。
- ・ 広域交通の玄関口である小樽港と連携を図ることは、新たな観光客等の誘客に有効と考えられます。

②公共交通の利用促進

ア. 観光・商業施設等との連携

公共交通と観光・商業施策が連携し、観光・商業施設と路線バスのチケットが一体となったバスチケットの提供などを行うことで、住民や観光客に対し公共交通の利用を促進しています。

- 公共交通と観光・商業施設が連携することで、利用者の増加を図り、持続的な公共交通の運行と観光振興や地域活性化への効果が期待されます。

【小樽市への応用】公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ

- ・公共交通と中心市街地や各観光地が連携したバスチケットの提供など、観光客のみならず小樽市民が魅力を感じるサービスを提供し公共交通の利用を促進することで、継続的な路線の維持や地域活性化につながると考えられます。

③情報発信

ア. 積極的なPR・周知

八戸市では、新幹線開業に伴い新路線を設定しましたが、PR不足により利用客があまり伸びず、廃止となった路線もありました。その後、公共交通の利用を促進していくため、観光客をはじめ住民に対しても、わかりやすい路線図やパンフレットの作成、ホームページの充実を行っており、広く周知を図っています。

- 新路線の設定の際は、十分な期間をとってPRを行うことが重要であり、ホームページやパンフレットによる情報提供においては、わかりやすさと使いやすさが重要と考えられます。

【小樽市への応用】2次交通に関する情報発信の強化

- ・小樽市内の各観光地へアクセスする際、バスによるアクセスが考えられるため、わかりやすい交通手段の情報提供ツールの充実が必要です。
- ・パンフレットやホームページの充実のほか、スマートフォンやタブレット等にも対応したWEBページの制作、各バス停におけるわかりやすい時刻表と路線図の案内についても有効と考えられます。また、これらにおいては多言語対応することも重要です。

4 2次交通対策

(1) 対策の方向性と取組案

2次交通対策の基本的な考え方を受け、他都市事例を参考に以下の2次交通対策の方向性の設定と取組案を整理しました。なお、取組案については、今後、実現に向けて可能性も含め調整するために、複数案を整理しています。

表 2次交通対策の方向性と取組案

方向性	取組案
方向性1 2次交通手段の確保	
①新小樽（仮称）駅と小樽駅を結ぶ交通手段の強化	ア. 現在の路線バスの強化 イ. 専用シャトルバスの運行 ウ. 中心部経由のバスの運行
②市内各観光地へアクセスするバス交通の充実	ア. 市内観光地・宿泊施設周遊バスの運行 イ. 朝里川温泉地域と結ぶバスの運行 ウ. 天狗山地域と結ぶバスの運行
③市内各地域からのアクセス強化	ア. バス路線の再編・乗継利便性の向上
④タクシーサービスの充実	ア. 乗合タクシーの運行 イ. 観光タクシーの運行
⑤北後志地域等との広域連携の強化	ア. 既存の路線バス的高速便の強化 イ. 乗合タクシーの運行 ウ. 周遊定期観光バスの充実 エ. 観光タクシーの運行 オ. レンタカーサービスの充実 カ. 積極的な情報発信・PR キ. 新小樽（仮称）と倶知安の周遊性を高めるサービスの検討 ク. クルーズ船等との連携
方向性2 公共交通の利用促進	
①公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ	ア. 地域連携等による魅力的なサービスの提供 イ. 魅力ある車両の導入
②移動円滑化の取組の推進	ア. バスを気軽に利用できる利便性向上策の実施 イ. ユニバーサルデザインの導入
方向性3 情報発信	
①情報発信の強化	ア. 積極的な情報発信・PR イ. 新小樽（仮称）駅に向かう案内・サインの設置 ウ. 外国人対応の強化
方向性4 新小樽（仮称）駅からまちを散策する交通手段の充実	
①まちを散策する交通手段の充実	ア. レンタサイクルの 充実
方向性5 官民連携による推進	
①官民が連携した体制づくり	ア. 官民が連携した体制づくりの検討・立ち上げ イ. アクションプランの作成
②官民が連携したアクションプランの実践	ア. アクションプランの推進
方向性6 広域連携による推進	
①広域連携組織の設立の検討	ア. 広域連携組織の設立の検討 イ. ブランド化の推進 ウ. アクションプランの作成
②広域連携事業の実施検討	ア. 広域連携事業の実施

方向性 1 2次交通手段の確保

※役割分担(想定)を追記
 ※各取組案に、「取組案に参考となる事例」「取組案に関する主な意見(ワークショップ・アンケート調査)」を追記

①新小樽(仮称)駅と小樽駅を結ぶ交通手段の強化

《取組案》

ア. 現在の路線バスの強化

- ・新小樽(仮称)駅と小樽駅を結ぶ、現「奥沢線」を生活交通として維持しつつ、両駅を結ぶ急行便(小樽駅急行シャトル便)を新幹線のダイヤに合わせて運行することについて検討。
- ・持続的な路線の維持を図るため、観光客の利用増加を図るとともに、周辺住民の日常的な交通手段として利用されることが重要。
- ・運賃は通常の運賃と同額を想定。
- ・わかりやすい行き先表示等を行い、利便性を確保。

実施・検討主体	行政、交通事業者(バス)	
検討課題	利用者ニーズの把握、各主体の役割分担	
時期	中期(H36)～	
役割分担 (想定)	行政	利用者ニーズ調査、運行支援、情報発信・PR
	交通事業者(バス)	バス運行、情報発信・PR

〔取組案に参考となる事例〕

- ・八戸駅／八戸駅⇄中心街間の10分間隔運行

〔取組案に関する主な意見(ワークショップ・アンケート調査)〕

- ・小樽駅と新小樽(仮称)駅とのアクセスが重要

イ. 専用シャトルバスの運行

- ・現「奥沢線」とは別に、新小樽(仮称)駅と小樽駅を結ぶ専用シャトルバスの運行を検討。
- ・運賃は通常の運賃と同額を想定。
- ・路線バスと区別できるように、わかりやすい情報提供や案内表示を実施。

※仮に天神町から小樽駅前までノンストップで運行した場合、約12分で到着。

→ 通常の路線バスよりも5～10分短縮(時速25km/hで計算)

実施・検討主体	行政、交通事業者(バス)	
検討課題	利用者ニーズの把握、各主体の役割分担	
時期	中期(H36)～	
役割分担 (想定)	行政	利用者ニーズ調査、運行支援、情報発信・PR
	交通事業者(バス)	バス運行、情報発信・PR

〔取組案に関する主な意見(ワークショップ・アンケート調査)〕

- ・小樽駅と新小樽(仮称)駅とのアクセスが重要

ウ. 中心部経由のバスの運行（小樽駅までちょっと寄り道小樽観光ダイジェストバス）

- ・新小樽（仮称）駅から小樽駅まで直行する上記の直行便やシャトルバスに加え、小樽の主要な観光地のひとつである、堺町周辺と中心市街地の停留所を経由し、小樽駅に向かうバスの運行を検討。
- ・例えば、「おたる散策バス」の路線を拡充し、新小樽（仮称）駅→南小樽駅→堺町周辺→小樽駅→堺町周辺→南小樽駅→新小樽（仮称）駅を循環または往復する路線の設定を検討。
- ・運賃は通常の運賃と同額を想定。

実施・検討主体	行政、交通事業者(バス)	
検討課題	利用者ニーズの把握、各主体の役割分担	
時期	中期(H36)～	
役割分担 (想定)	行政	利用者ニーズ調査、運行支援、情報発信・PR
	交通事業者(バス)	ルート検討、バス運行、情報発信・PR

[取組案に参考となる事例]

- ・新青森駅／ねぶたん号の運行

[取組案に関する主な意見(ワークショップ・アンケート調査)]

- ・小樽駅と新小樽(仮称)駅とのアクセスが重要
- ・バスの循環が重要



図 観光地を巡るバス路線図（再掲）

②市内各観光地へアクセスするバス交通の充実

《取組案》

ア. 市内観光地・宿泊施設周遊バスの運行（おたる新散策バス）

- ・新小樽（仮称）駅から市内の観光地や宿泊施設を周遊するバスの運行を検討。
- ・例えば、新小樽（仮称）駅⇄ぱるて築港地域⇄堺町周辺・中心市街地⇄祝津周辺を往復する路線の設定を検討。
- ・運賃は、観光客にもわかりやすい料金体系の設定を検討。
- ・観光施設や宿泊施設の最寄りの停留所についてわかりやすくアナウンスすることが有効。

実施・検討主体	行政、交通事業者(バス)、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者	
検討課題	利用者ニーズの把握、料金設定、各主体の役割分担	
時期	中期(H36)～	
役割分担 (想定)	行政	利用者ニーズ調査、運行支援、情報発信・PR
	交通事業者(バス)	ルート検討、バス運行、情報発信・PR
	経済・産業団体	運行支援、情報発信・PR
	観光団体	運行支援、情報発信・PR
	観光・宿泊事業者	運行支援、情報発信・PR

〔取組案に参考となる事例〕

- ・新青森駅／ねぶたん号の運行

〔取組案に関する主な意見(ワークショップ・アンケート調査)〕

- ・バスの循環が重要
- ・新駅からの交通アクセスの充実(取組むべき方向性)

イ. 朝里川温泉地域と結ぶバスの運行（朝里川温泉湯ったりバス）

- ・新小樽（仮称）駅と朝里川温泉地域を結ぶバスの運行を検討。
- ・路線沿線住民の生活交通としての利用も想定。

実施・検討主体	行政、交通事業者(バス)、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者	
検討課題	利用者ニーズの把握、料金設定、各主体の役割分担	
時期	中期(H36)～	
役割分担 (想定)	行政	利用者ニーズ調査、運行支援、情報発信・PR
	交通事業者(バス)	ルート検討、バス運行、情報発信・PR
	経済・産業団体	運行支援、情報発信・PR
	観光団体	運行支援、情報発信・PR
	観光・宿泊事業者	運行支援、情報発信・PR

〔取組案に参考となる事例〕

- ・七戸十和田駅／七戸十和田奥入瀬シャトルバス
- ・八戸駅／八食 100 円バスの運行

ウ. 天狗山地域と結ぶバスの運行（天狗山展望バス）

- ・新小樽（仮称）駅と天狗山地域を結ぶバスの運行を検討。
- ・路線沿線住民の生活交通としての利用も想定。

実施・検討主体	行政、交通事業者（バス）、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者	
検討課題	利用者ニーズの把握、料金設定、各主体の役割分担	
時期	中期（H36）～	
役割分担 （想定）	行政	利用者ニーズ調査、運行支援、情報発信・PR
	交通事業者（バス）	ルート検討、バス運行、情報発信・PR
	経済・産業団体	運行支援、情報発信・PR
	観光団体	運行支援、情報発信・PR
	観光・宿泊事業者	運行支援、情報発信・PR

〔取組案に参考となる事例〕

- ・七戸十和田駅／七戸十和田奥入瀬シャトルバス
- ・八戸駅／八食 100 円バスの運行

③市内各地域からのアクセス強化

ア. バス路線の再編・乗継利便性の向上

- ・新小樽（仮称）駅へのアクセス利便性を高めるため、市内各地域と新小樽（仮称）駅を結ぶバス路線の検討や乗継拠点の設定・待合所の整備など、乗継によるアクセス向上策について検討。

実施・検討主体	行政、交通事業者（バス）	
検討課題	利用者ニーズの把握、市内バス路線体系の見直し、各主体の役割分担	
時期	中期（H36）～	
役割分担 （想定）	行政	利用者ニーズ調査、路線再編案の検討、待合所整備支援、運行支援
	交通事業者（バス）	路線再編案の検討、待合所整備、バス運行

〔取組案に参考となる事例〕

- ・新函館北斗駅／既存路線の見直し・新規路線の開設

〔取組案に関する主な意見（ワークショップ・アンケート調査）〕

- ・新駅からの交通アクセスの充実（取組むべき方向性）

④タクシーサービスの充実

＜取組案＞

ア. 乗合タクシーの運行（乗合タクシー深夜便）

- ・バスの最終便の後に新幹線が到着する場合は、小樽駅や朝里川温泉地域等へ向かう乗合タクシーの運行を検討。

実施・検討主体	行政、交通事業者(タクシー)	
検討課題	利用者ニーズの把握、料金設定の検討、各主体の役割分担	
時期	中期(H36)～	
役割分担 (想定)	行政	乗合タクシー運行に向けた検討・調査、運行支援
	交通事業者(タクシー)	乗合タクシー運行

〔取組案に参考となる事例〕

- ・七戸十和田駅／乗合タクシー「夜プラス」の運行
- ・八戸駅／深夜乗合タクシー「シンタクン」の運行

イ. 観光タクシーの運行（小樽周遊観光タクシー）

- ・新小樽（仮称）駅から市内の各観光地を周遊する観光タクシーの運行を検討。
- ・事前予約なしで利用でき、1台・1回あたりの定額制の旅行商品としての販売を想定。
- ・観光案内や外国語対応できるドライバーの配置が重要。

実施・検討主体	行政、観光・宿泊事業者、交通事業者(タクシー)、経済・産業団体、観光団体	
検討課題	コース・料金設定、タクシー事業者の連携、各主体の役割分担	
時期	中期(H36)～	
役割分担 (想定)	行政	情報発信・PR
	観光事業者	情報発信・PR
	交通事業者(タクシー)	事業者連携、観光タクシー運行
	経済・産業団体	情報発信・PR
	観光団体	情報発信・PR

〔取組案に参考となる事例〕

- ・新青森駅、八戸駅／JRによる「駅から観タクン」の運行

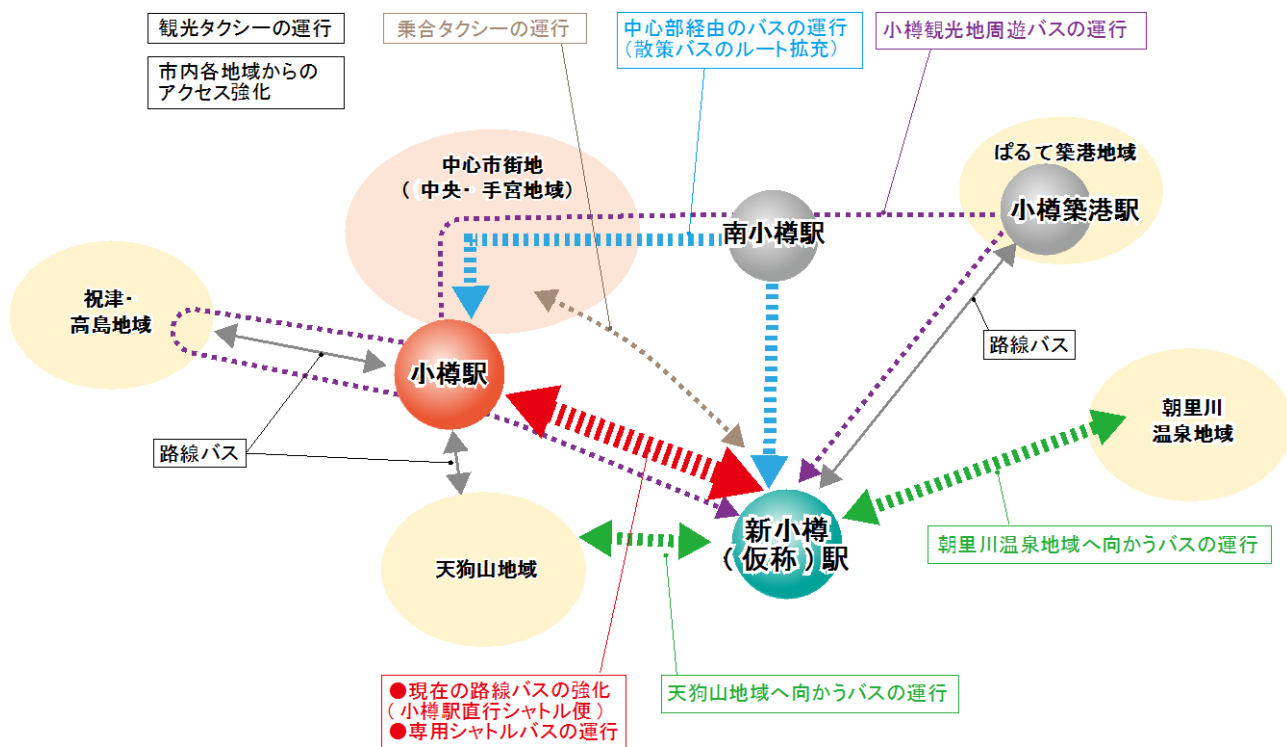


図 市内2次交通手段の確保

⑤北後志地域等との広域連携の強化

＜取組案＞

ア. 既存の路線バスの高速便の強化（積丹・ニセコ・岩内高速便）

- ・新幹線の整備効果を北後志地域や岩宇地域等へ波及させるため、小樽駅を經由して北後志地域等まで向かう既存のバス路線を活用した高速便の増便を検討。
- ・持続的な路線の維持を図るため、観光客の利用に加え、周辺住民の日常的な交通手段として利用されることが重要。

実施・検討主体	行政、交通事業者(バス)	
検討課題	利用者ニーズの把握、各主体の役割分担	
時期	中期(H36)～	
役割分担 (想定)	行政	運行支援、情報発信・PR
	交通事業者(バス)	バス運行、情報発信・PR

〔取組案に参考となる事例〕

- ・新函館北斗駅／既存路線の見直し・新規路線の開設
- ・八代駅／高速バス「B&S みやざき」の運行

〔取組案に関する主な意見(ワークショップ・アンケート調査)〕

- ・小樽駅を中心に JR やバスが北後志地域と接続しているので、小樽駅と新小樽(仮称)駅とのアクセスが重要

イ. 乗合タクシーの運行（北後志地域シャトル乗合タクシー）

- ・北後志地域等の住民や観光客が新小樽(仮称)駅との交通手段を確保するため、新小樽(仮称)駅と北後志地域等の各町村を結ぶシャトル便として乗合タクシーの運行を検討。
- ・事前予約による運行を想定。

実施・検討主体	行政、交通事業者(タクシー)、観光団体、観光・宿泊事業者	
検討課題	利用者ニーズの把握、事前予約等の利用方法、各主体の役割分担	
時期	中期(H36)～	
役割分担 (想定)	行政	利用者ニーズ調査、運行支援
	交通事業者(タクシー)	乗合タクシー運行
	観光団体	運行支援、情報発信・PR
	観光・宿泊事業者	運行支援、情報発信・PR

〔取組案に参考となる事例〕

- ・七戸十和田駅／シャトル便(七戸十和田⇄むつ市)の運行

〔取組案に関する主な意見(ワークショップ・アンケート調査)〕

- ・乗合タクシー、バス等の公共交通でつなげた方が良い

ウ. 周遊定期観光バスの充実（積丹・ニセコ・岩内周遊定期観光バス）

- ・新小樽（仮称）駅から出発もしくは経由し、北後志地域等の観光地を周遊する定期観光バスの充実を検討。
- ・例えば、ニッカウキスキー北海道工場余市蒸溜所、道の駅スペース・アップルよいち、水中展望船乗り場、神威岬などを巡る海の幸を味わえるコース、余市、仁木、倶知安方面を巡り農産物を味わえるコースなど、地域の特色を生かしたコース等の設定。

実施・検討主体	行政、交通事業者（バス）、観光団体、観光・宿泊事業者	
検討課題	利用者ニーズの把握、各主体の役割分担	
時期	短期（H29）～	
役割分担 （想定）	行政	情報発信・PR
	交通事業者（バス）	バスの運行、情報発信・PR
	観光団体	情報発信・PR
	観光・宿泊事業者	情報発信・PR

〔取組案に参考となる事例〕

- ・新函館北斗駅／既存路線の見直し・新規路線の開設

エ. 観光タクシーの運行（積丹・ニセコ・岩内周遊観光タクシー）

- ・新小樽（仮称）駅から北後志地域等を周遊する観光タクシーの運行を検討。
- ・事前予約なしで利用でき、1台・1回あたりの定額制の旅行商品としての販売を想定。
- ・観光案内や外国語対応できるドライバーの配置が重要。
- ・様々な利用ニーズに合わせるため、小型車両から大型車両まで用意し、事前に予約があれば車両の選択が可能となるなどのサービスを検討。
- ・料金は時間と車種に応じた定額制を想定。

実施・検討主体	行政、観光・宿泊事業者、交通事業者（タクシー）、経済・産業団体、観光団体	
検討課題	コース・料金設定、タクシー事業者の連携、各主体の役割分担	
時期	短期（H29）～	
役割分担 （想定）	行政	情報発信・PR
	観光事業者	情報発信・PR
	交通事業者（タクシー）	事業者連携、観光タクシー運行
	経済・産業団体	情報発信・PR
	観光団体	情報発信・PR

〔取組案に参考となる事例〕

- ・新青森駅、八戸駅／JRによる「駅から観タクン」の運行

オ. レンタカーサービスの充実

- ・北後志地域等でレンタカーを利用できるよう、各地で貸出・返却できるよう営業所のない市町村における営業所の設置を推進する。
- ・倶知安駅から借りて新小樽（仮称）駅で乗捨て料金はかからないようにするなど、北後志地域等の周遊性を向上させるレンタカーの利用し易い方法を検討。
- ・また、レンタカー利用者への北後志地域等における観光施設等の特典サービスの提供について検討。

実施・検討主体	行政、レンタカー事業者、観光団体、観光・宿泊事業者	
検討課題	レンタカー事業者との協議、特典内容の検討	
時期	短期(H29)～	
役割分担 (想定)	行政	営業所新設に向けた支援
	レンタカー事業者	営業所の新設、特典パンフレット等の作成
	観光団体	特典サービス提供の検討、情報発信・PR
	観光・宿泊事業者	特典サービス提供

カ. 積極的な情報発信・PR

- ・北後志地域等が一体となった路線図や時刻表の作成、情報発信について検討。
- ・新小樽（仮称）駅における北後志地域等の物産展示及びお土産販売を検討。

実施・検討主体	行政、交通事業者（鉄道・バス・タクシー）、観光団体、観光・宿泊事業者	
検討課題	情報発信内容の検討、各情報媒体、多言語対応	
時期	短期(H29)～	
役割分担 (想定)	行政	発信内容の検討・とりまとめ、情報発信・PR
	交通事業者 (鉄道・バス・タクシー)	情報コンテンツの提供、情報発信・PR
	観光団体	情報コンテンツの提供、情報発信・PR
	観光・宿泊事業者	情報コンテンツの提供、情報発信・PR

〔取組案に参考となる事例〕

- ・八戸駅／バスマップなどの作成・配布による周知

〔取組案に関する主な意見(ワークショップ・アンケート調査)〕

- ・散策マップなど観光情報の提供、デジタルサイネージによる JR やバス等のアクセス情報の提供

方向性 2 公共交通の利用促進

①公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ

《取組案》

ア. 地域連携等による魅力的なサービスの提供

- ・観光施設等と公共交通が連携し、バスチケットと観光施設の特典や入場料金の割引が一体となったバスパックの販売を検討。
- ・団体割引の料金サービスなどの特典の導入について検討。
- ・小樽・北後志地域等のバスが乗車できる1日フリーパス導入について検討。

実施・検討主体	行政、交通事業者(バス)、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者	
検討課題	具体的なサービス内容・料金設定、各主体の役割分担	
時期	短期(H29)～	
役割分担 (想定)	行政	サービスの提供に向けた支援、情報発信・PR
	交通事業者(バス)	サービス内容の検討、サービスの提供・販売、情報発信・PR
	経済・産業団体	サービス内容の検討、情報発信・PR
	観光団体	サービス内容の検討、情報発信・PR
	観光・宿泊事業者	サービスの提供・販売

[取組案に参考となる事例]

- ・八戸駅/「わくわく♪日帰り路線バスパック」の提供

イ. 魅力ある車両の導入

- ・ラッピングバスの運行など、魅力ある車両を導入し、バスに乗ること自体の魅力づけを検討。
- ・新小樽(仮称)駅⇔中心部⇔小樽駅のバス(小樽駅までちょっと寄り道観光ダイジェストバス、おたる新散策バス)については、レトロバスなど観光の魅力となるバス車両の導入を検討。

実施・検討主体	行政、交通事業者(バス)、経済・産業団体、観光団体	
検討課題	導入路線の設定、車両デザイン、各主体の役割分担	
時期	短期(H29)～	
役割分担 (想定)	行政	導入支援、情報発信・PR
	交通事業者(バス)	導入路線・テーマ・デザイン等の検討、バス運行
	経済・産業団体	導入支援、情報発信・PR
	観光団体	導入支援、情報発信・PR

②移動円滑化の取組の推進

《取組案》

ア. バス・タクシーを気軽に利用できる利便性向上策の実施

- ・新小樽（仮称）駅からバス・タクシーへ円滑に乗り継ぎすることができるよう、ハード・ソフト両面から利便性向上策を検討。
- ・例えば、新小樽（仮称）駅におけるバス・タクシー乗り場等へ円滑に誘導する、わかりやすい動線計画ときめ細かなサインの設置、行き先方面別のバス停留所の設定、時刻表等の電光掲示板やタッチパネルの導入、また、既存バス路線における乗継拠点の設定や待合所の整備など、公共交通を利用しやすい環境づくりを実施。
- ・また、新小樽（仮称）駅から宿泊施設へ荷物を運ぶ宅配サービスの導入や、大型のロッカーや保冷機能が付いたロッカーの設置など、身軽になって観光を楽しむことができるサービスの提供を検討。

実施・検討主体	行政、交通事業者(バス)、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者	
検討課題	具体的なサービス内容、各主体の役割分担	
時期	短期(H29)～	
役割分担 (想定)	行政	ハード面での環境整備
	交通事業者(バス)	利便性向上策の検討
	経済・産業団体	利便性向上策の検討
	観光団体	利便性向上策の検討
	観光・宿泊事業者	利便性向上策の検討

〔取組案に関する主な意見(ワークショップ・アンケート調査)〕

- ・駅内にはロッカーの整備も必要
- ・ホテルとお店で連携した手荷物お預かりサービス(土産・バッグ)が必要

イ. ユニバーサルデザイン等の導入の推進

- ・公共施設をはじめ、各鉄道駅やバス待合所、観光施設など、まち全体でユニバーサルデザインの導入を推進。
- ・バスについては低床車両の導入を推進。

実施・検討主体	行政、交通事業者(バス)、経済・産業団体、観光団体	
検討課題	ユニバーサルデザイン導入の推進	
時期	短期(H29)～	
役割分担 (想定)	行政	ユニバーサルデザインや低床車両導入の推進・支援
	交通事業者(バス)	ユニバーサルデザイン推進、低床車両導入
	経済・産業団体	ユニバーサルデザイン推進
	観光団体	ユニバーサルデザイン推進

方向性 3 情報発信

①情報発信の強化

《取組案》

ア. 積極的な情報発信・PR

- ・公共交通の持続的な運行に向けては、市民や観光客等に対し、わかりやすい情報を発信。
- ・北後志地域等との広域交通を含め、市内バス路線等の 2 次交通について路線図や時刻表、また目的地となる主要な観光施設等も記載された、わかりやすいパンフレットの作成を検討。
- ・情報が一元化された Web ページの作成、タブレットやスマートフォンに対応した情報発信、外国語表示への対応を検討。

実施・検討主体	行政、交通事業者（バス）、経済・産業団体、観光団体	
検討課題	情報提供の内容・方法の検討、情報媒体	
時期	短期(H29)～	
役割分担 (想定)	行政	発信内容の検討・とりまとめ、情報発信・PR
	交通事業者 (鉄道・バス・タクシー)	情報コンテンツの提供、情報発信・PR
	経済・産業団体	情報コンテンツの提供、情報発信・PR
	観光団体	情報コンテンツの提供、情報発信・PR

〔取組案に参考となる事例〕

- ・八戸駅／バスマップなどの作成・配布による周知

〔取組案に関する主な意見(ワークショップ・アンケート調査)〕

- ・散策マップなど観光情報の提供、デジタルサイネージによる JR やバス等のアクセス情報の提供

イ. 新小樽（仮称）駅に向かう案内・サインの設置

- ・各種交通結節点（JR 駅、インターチェンジ、港）や市内各観光地、札幌方面、北後志地域等から、新小樽（仮称）駅へ向かうルート上において、新小樽（仮称）駅までの案内標識やサインを設置し、新小樽（仮称）駅までわかりやすく誘導することを検討。

実施・検討主体	行政	
検討課題	案内・サインの設置場所検討、情報提供の内容	
時期	中期 (H36) ～	
役割分担 (想定)	行政	サイン設置にかかる検討・調査、サイン設置

ウ. 外国人対応の強化

- ・外国人利用者の移動円滑化に向けて、バス車内アナウンスや交通結節点（JR 駅、インターチェンジ、港）における案内・サイン、路線図・時刻表などの各種パンフレット、ホームページ等における多言語対応を検討。
- ・バスやタクシー運転手の外国人対応力の強化に向けた研修会等によるスキルアップ方策やイラスト等を用いたコミュニケーションツール導入を検討。

実施・検討主体	行政、交通事業者（鉄道・バス・タクシー）、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者	
検討課題	対応箇所の検討、各主体の役割分担	
時期	短期（H29）～	
役割分担 （想定）	行政	外国語対応の推進、研修会等の開催、コミュニケーションツールの作成等
	交通事業者 （鉄道・バス・タクシー）	外国語対応力の強化
	経済・産業団体	外国語対応力の強化
	観光団体	外国語対応力の強化
	観光・宿泊事業者	外国語対応力の強化

〔取組案に関する主な意見(ワークショップ・アンケート調査)〕

- ・外国人への対応が必要

方向性 4 新小樽（仮称）駅からまちを散策する交通手段の充実

①まちを散策する交通手段の充実

《取組案》

ア. レンタサイクルの充実

- ・新小樽（仮称）駅から小樽のまちを自転車で自由に散策することができるよう、新小樽（仮称）駅と市内の各観光地や中心部にレンタサイクルカウンターとポート（貸出・返却のできる駐輪スペース）の設置を検討。
- ・宿泊先のホテルや交通結節点となる小樽駅まで、スーツケース等の手荷物を宅配するサービスを併せて検討。
- ・坂道の多い小樽において快適に利用できるよう、電動自転車の導入を検討。

実施・検討主体	行政、レンタサイクル事業者、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者	
検討課題	ポート設置、利用方法・料金設定、周知方法、各主体の役割分担	
時期	中期(H36)～	
役割分担 (想定)	行政	ポートの設置協力、運用支援、情報発信・PR
	レンタサイクル事業者	サービスの提供、情報発信・PR
	経済・産業団体	ポートの設置協力、情報発信・PR
	観光団体	ポートの設置協力、情報発信・PR
	宿泊事業者	ポートの設置協力、情報発信・PR

[取組案に関する主な意見(ワークショップ・アンケート調査)]

- ・徒歩や自転車による観光。

方向性5 官民連携による推進

①官民が連携した体制づくり（市内・広域）

《取組案》

ア. 官民が連携した体制づくりの検討・立ち上げ

- ・行政、経済・産業団体、観光団体等で構成される、新幹線開業に向けて準備を進める官民が連携した、オール小樽の体制づくりを推進。

実施・検討主体	行政、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者、交通事業者（鉄道・バス・タクシー）、大学、まちづくり団体、市民	
検討課題	官民連携組織の組織形態・運営方法の検討、メンバー調整	
時期	短期（H29）～	
役割分担 (想定)	行政	組織形態・運営方法等の検討、各主体との連絡調整、組織への参画
	経済・産業団体	組織への参画
	観光団体	組織への参画
	観光・宿泊事業者	組織への参画、事業者連携
	交通事業者 (鉄道・バス・タクシー・船舶)	組織への参画、事業者連携
	大学	組織への参画
	まちづくり団体	組織への参画
	市民	組織への参画

〔取組案に参考となる事例〕

- ・飯山駅／信州いいやま観光局の設立
- ・新高岡駅／新幹線まちづくり高岡市民会議の設立
- ・新函館北斗駅／北海道新幹線新函館開業対策推進機構の設立

イ. アクションプランの作成

- ・官民が連携した組織が、新幹線開業に向けたアクションプランを作成。

実施・検討主体	行政、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者、交通事業者（鉄道・バス・タクシー）、大学、まちづくり団体、市民	
検討課題	アクションプランの検討	
時期	短期（H29）～	
役割分担 （想定）	行政	各主体との連絡調整、プラン作成・とりまとめ
	経済・産業団体	プラン作成・とりまとめ
	観光団体	プラン作成・とりまとめ
	観光・宿泊事業者	プラン検討・提案、事業者連携
	交通事業者 （鉄道・バス・タクシー・船舶）	プラン検討・提案、事業者連携
	大学	プラン検討・提案
	まちづくり団体	プラン検討・提案
	市民	プラン検討・提案

〔取組案に参考となる事例〕

- ・新高岡駅／たかおか新幹線アクションプランの作成
- ・新函館北斗駅／北海道新幹線開業はこだて活性化アクションプランの作成

②官民が連携したアクションプランの実践

ア. アクションプランの推進

- ・官民が連携した体制に基づき、作成したアクションプランを推進。
- ・北後志地域等の市町村を一括した情報発信・PRの検討、山・海、果樹、景観などの地域資源を生かした連携事業や広域交通の取組を実施。

実施・検討主体	行政、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者、交通事業者（鉄道・バス・タクシー）、大学、まちづくり団体、市民	
検討課題	事業者間の調整	
時期	中期（H35）～	
役割分担 (想定)	行政	事業者間調整、各取組の実践
	経済・産業団体	事業者間調整、各取組の実践
	観光団体	事業者間調整、各取組の実践
	観光・宿泊事業者	事業者間連携、各取組の実践
	交通事業者 (鉄道・バス・タクシー・船舶)	事業者間連携、各取組の実践
	大学	各取組の実践
	まちづくり団体	各取組の実践
	市民	各取組の実践

[取組案に参考となる事例]

- ・飯山駅／信州いいやま観光局による取組
- ・新高岡駅／新幹線まちづくり高岡市民会議による取組
- ・新函館北斗駅／北海道新幹線新函館開業対策推進機構による取組

方向性 6 広域連携の推進

①広域連携組織設立の検討

《取組案》

ア. 広域連携組織の設立の検討

- ・北後志地域等の市町村や民間を含めた各主体で構成される広域連携組織の設立を検討するとともに、広域観光や広域交通の在り方と具体的な方策について検討。

実施・検討主体	行政、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者、交通事業者（鉄道・バス・タクシー）、大学、まちづくり団体、住民	
検討課題	広域連携組織の組織形態・運営方法の検討、メンバー調整	
時期	短期（H29）～	
役割分担 (想定)	行政	組織形態・運営方法等の検討、各主体との連絡調整、組織への参画
	経済・産業団体	組織への参画
	観光団体	組織への参画
	観光・宿泊事業者	組織への参画、事業者連携
	交通事業者 (鉄道・バス・タクシー・船舶)	組織への参画、事業者連携
	大学	組織への参画
	まちづくり団体	組織への参画
	住民	組織への参画

〔取組案に参考となる事例〕

- ・飯山駅／信越 9 市町村広域観光連携会議
- ・金沢駅／新幹線金沢駅周辺地域連絡会
- ・木古内駅／新幹線木古内駅活用推進協議会

イ. ブランド化の推進

- ・北後志地域等の山・海、果樹、景観などの地域資源を生かし、エリア全体のブランド化を検討。

実施・検討主体	行政、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者、交通事業者（鉄道・バス・タクシー）、大学、まちづくり団体、住民	
検討課題	ブランド化の検討	
時期	短期（H29）～	
役割分担 (想定)	行政	ブランド化の調査・検討各主体との連絡調整、とりまとめ
	経済・産業団体	ブランド化の検討・とりまとめ
	観光団体	ブランド化の検討・とりまとめ
	観光・宿泊事業者	ブランドに合った事業・取組の検討、事業者連携
	交通事業者 (鉄道・バス・タクシー・船舶)	ブランドに合った事業・取組の検討、事業者連携
	大学	ブランド化に向けた調査・研究、取組の検討・提案
	まちづくり団体	ブランド化に向けた取組の検討・提案
	住民	ブランド化に向けた取組の検討・提案

〔取組案に参考となる事例〕

- ・飯山駅／信越9市町村広域観光連携会議

ウ. アクションプランの作成

- ・北後志地域等が連携した広域連携組織が、新幹線開業に向けたアクションプランを作成。

実施・検討主体	行政、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者、交通事業者（鉄道・バス・タクシー）、大学、まちづくり団体、住民	
検討課題	アクションプランの検討	
時期	短期（H29）～	
役割分担 (想定)	行政	各主体との連絡調整、プラン作成・とりまとめ
	経済・産業団体	プラン作成・とりまとめ
	観光団体	プラン作成・とりまとめ
	観光・宿泊事業者	プラン検討・提案、事業者連携
	交通事業者 (鉄道・バス・タクシー・船舶)	プラン検討・提案、事業者連携
	大学	プラン検討・提案
	まちづくり団体	プラン検討・提案
	住民	プラン検討・提案

〔取組案に参考となる事例〕

- ・木古内駅／新幹線木古内駅活用推進協議会

②広域観光連携事業の実施検討

ア. 広域連携事業の実施

- ・広域連携組織が作成したアクションプランを推進。
- ・北後志地域等の市町村を一括した情報発信・PRの検討、地域資源を生かした連携事業や広域交通の取組を実施。

実施・検討主体	行政、経済・産業団体、観光団体、観光・宿泊事業者、交通事業者（鉄道・バス・タクシー）、大学、まちづくり団体、住民	
検討課題	事業者間の調整	
時期	中期（H35）～	
役割分担 (想定)	行政	事業者間調整、各取組の実践
	経済・産業団体	事業者間調整、各取組の実践
	観光団体	事業者間調整、各取組の実践
	観光・宿泊事業者	事業者間連携、各取組の実践
	交通事業者 (鉄道・バス・タクシー・船舶)	事業者間連携、各取組の実践
	大学	各取組の実践
	まちづくり団体	各取組の実践
	住民	各取組の実践

[取組案に参考となる事例]

- ・飯山駅／信越9市町村広域観光連携会議
- ・金沢駅／新幹線金沢駅周辺地域連絡会
- ・木古内駅／新幹線木古内駅活用推進協議会

(2) 対策の展開

1) 対策の展開プログラム

方向性	取組案	短期 (H29~H35)	中期 (H36~H42)	H42	長期 (H43~)
方向性1 2次交通手段の確保					
① 新小樽（仮称）駅と小樽駅を結ぶ交通手段の強化	ア. 現在の路線バスの強化 イ. 専用シャトルバスの運行 ウ. 中心部経由のバスの運行		● 関係機関との協議の上、実施事業者、路線、ダイヤ、料金等の検討	開業	● 乗降調査、利用者アンケートなどによる検証・見直し
② 市内各観光地へアクセスするバス交通の充実	ア. 市内観光地・宿泊施設周遊バスの運行 イ. 朝里川温泉地域と結ぶバスの運行 ウ. 天狗山地域と結ぶバスの運行		● 関係機関との協議の上、実施事業者、路線、ダイヤ、料金等の検討		● 乗降調査、利用者アンケートなどによる検証・見直し
③ 市内各地域からのアクセス強化	ア. バス路線の再編・乗継利便性の向上		● 関係機関との協議の上、路線、ダイヤ等の検討		● 乗降調査、利用者アンケートなどによる検証・見直し
④ タクシーサービスの充実	ア. 乗合タクシーの運行 イ. 観光タクシーの運行		● 関係機関との協議の上、実施事業者、料金等の検討		● 乗降調査、利用者アンケートなどによる検証・見直し
⑤ 北後志地域等との広域連携の強化	ア. 既存の路線バスの高速便の強化 イ. 乗合タクシーの運行 ウ. 周遊定期観光バスの充実 エ. 観光タクシーの運行 オ. レンタカーサービスの充実 カ. 積極的な情報発信・PR キ. 新小樽（仮称）と倶知安の周遊性を高めるサービスの検討 ク. クルーズ船等との連携	● 広域連携について、関係市町村で協議 ● 情報発信・PR ● 広域路線や周遊バスについて検討・実証	● 広域路線や周遊バスについて検討・実証試験 ● 周遊性を高めるサービスの検討 ● クルーズ船等との連携策の検討		● 乗降調査、利用者アンケートなどによる検証・見直し
方向性2 公共交通の利用促進					
① 公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ	ア. 地域連携等による魅力的なサービスの提供 イ. 魅力ある車両の導入	● 関係機関と協議し、バス交通の利用促進策を検討・実施		開業	● 利用実績、利用者アンケートなどによる検証・見直し
② 移動円滑化の取組の推進	ア. バスを気軽に利用できる利便性向上策の実施 イ. ユニバーサルデザイン等の導入の推進	● 関係機関と協議し、サービス提供について検討・実施 ● ユニバーサルデザイン導入の推進 ● 低床車両導入の推進			● 利用状況に応じ検証・見直し ● 継続実施

方向性	取組案	短期 (H29~H35)	中期 (H36~H42)	H42	長期 (H43~)	
方向性3 情報発信						
① 情報発信の強化	ア. 積極的な情報発信・PR イ. 新小樽(仮称)駅に向かう案内・サインの設置 ウ. 外国人対応の強化	●公共交通に関するわかりやすい情報発信について検討・実施 ●外国人対応の強化	●案内・サインの設置	開業	●継続実施	
方向性4 新小樽(仮称)駅からまちを散策する交通手段の充実						
① まちを散策する交通手段の充実	ア. レンタサイクルの充実		●関係機関との協議の上、実施事業者等の検討		●利用実績、利用者アンケートなどによる検証・見直し	
方向性5 官民連携による推進						
① 官民が連携した体制づくり(市内・広域)	ア. 官民が連携した体制づくり(市内・広域) イ. アクションプランの作成	●各主体間との協議と体制づくり ●アクションプランの作成	●アクションプランの計画的な見直し			
② 官民が連携したアクションプランの実践	ア. 官民が連携したアクションプランの推進		●各取組の展開 ●適的な取組の見直し		●継続的な実施 ●各取組の見直し	
方向性6 広域連携の推進						
① 広域連携組織設立の検討	ア. 広域連携組織の設立の検討 イ. ブランド化の推進 ウ. アクションプランの作成	●各市町村との協議と体制づくり ●アクションプランの作成	●アクションプランの計画的な見直し			
② 広域観光連携事業の実施検討	ア. 広域連携事業の実施		●各取組の展開 ●適的な取組の見直し	●継続的な実施 ●各取組の見直し		

2) 推進体制

取組の実施にあたっては、市民をはじめ、官民連携による協議会などを立ち上げ、具体的な取組を推進していくものとします。

庁内においても、観光・中心市街地活性化等の庁内連携体制を整え、相互に連携を図りながら取組を進めていくものとします。また、広域連携組織の設立を検討し、調整を整えていきます。

